八女市元気プロジェクト

ーコミュニティFMを活用した地域活性化ー

2012年度成果報告書

慶應義塾大学飯盛義徳研究室

目次

1. プロジェクト概要
   - 1-1. プロジェクト概要・目的
   - 1-2. プロジェクト推進イメージ
   - 1-3. 3年間の活動概要
   - 1-4. プロジェクトメンバー（教職員）
   - 1-5. プロジェクトメンバー（学生）

2. 2012年度プロジェクト内容
   - 2-1. 2012年度の目標・内容
   - 2-2. ラジオまちづくり学校
   - 2-3. 市民学生連携活動
     - 2-3-1. 八女の話
     - 2-3-2. 若者ワークショップ
     - 2-3-3. 八女市元気プロジェクト特別記念番組
     - 2-3-4. 茶のくにで遊ぶ会
     - 2-3-5. FM八女ファンクラブページ開設会議
   - 2-4. 八女の話音
   - 2-5. 最終報告会

3. プロジェクト実施後の提案
   - 3-1. 提案1：FM桐生事例調査によるFM八女への提案
   - 3-2. 提案2：非公式FM八女ファンクラブの立ち上げ
   - 3-3. 提案3：外部八女ファンからのラジオ番組提供
   - 3-4. 提案4：サイバー鬼ごっことFM八女のコラボレーション

4. 2012年度プロジェクト成果
   - 4-1. 成果1：市民学生コミュニティの形成
   - 4-2. 成果2：ラジオまちづくりの現実的な提案
   - 4-3. 成果3：市民制作のラジオ番組
   - 4-4. 成果4：市民のラジオ出演
   - 4-5. 成果5：市民企画の実現
   - 4-6. 成果6：ORFにおける発表
   - 4-7. 成果7：メディア掲載
   - 4-8. 成果8：ラジオ出演
   - 4-9. 成果9：市民によるFM八女を活用したまちづくり政策提言

5. 学生からのメッセージ

1

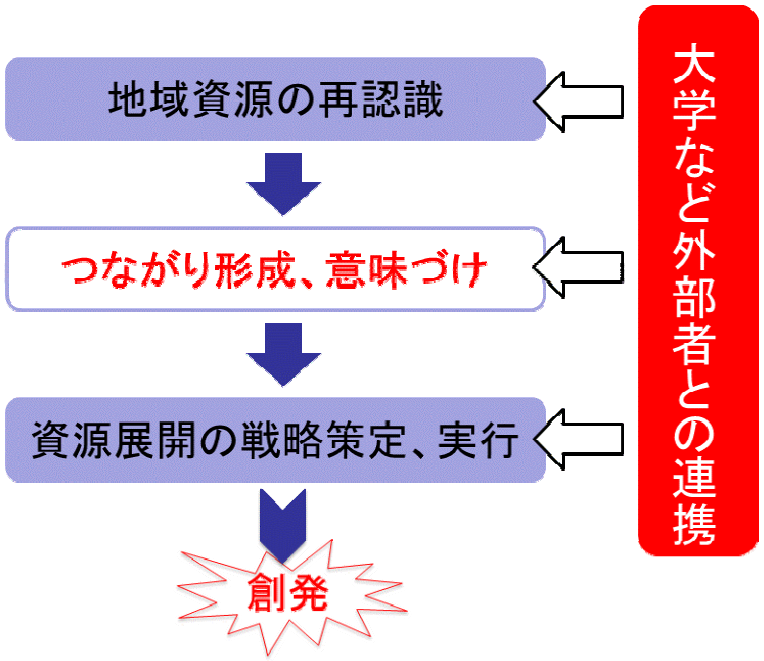
プロジェクト概要

1-1. プロジェクト概要・目的

本研究プロジェクトは、福岡県の「個性ある地域づくり推進事業費補助金(ITを活用した中山間地域活性化事業)」の支援を受けている八女市、九州テレコム振興センター、慶應義塾大学飯盛義徳研究室との連携により推進される。

福岡県八女市は2006年10月1日に上陽町、2010年2月1日に黒木町、立花町、星野村、矢部村を合併し、今後、新八女市としての魅力を打ち出し、課題を解決していくことが希求されている。中でも、コミュニティFMや情報技術を活用した地域活性化が課題の一つであり、本プロジェクトは、そのための解決策に、実践と研究の両輪を回すことにより取り組むものである。情報技術を活用して地域活性化を実現するためには、地域の資源を見出し、発信し、地域を盛り上げていくことのできる人材がいかに活躍できるかにかかっているといっても過言ではない。また、地域活性化に関心のある人々が集まり、切磋琢磨できるコミュニティ機能も不可欠である。

そこで、本プロジェクトでは、コミュニティFM開局に向け、八女市における人と人とのつながりを形成し、新しい活動などが芽生えるようなプラットフォームを設計することを目指す。具体的には、まず、コミュニティFM、情報インフラの整備だけにとどまらず、地域の人々の協働によって、資源を再確認し、それを発掘、編集していくプロセスが起こるような仕組みをつくる。このような活動の中で、新しいつながりが形成され、地域をどのように元気にしていくのかの意味づけが行われ、一体感が醸成されることが期待される。次のステップとして、自らが発見、編集した地域資源、情報を外部に発信するという、「資源化のプロセス」(右図)が起こる機会をつくる。そのために、地域の人々の協働をもたらし、方向性を打ち立て、思いを広め、情報発信を推進していく人材が不可欠であり、人材の育成と、八女市の地域づくりに関心のある人々のコミュニティ形成の支援を行っていく。



●資源化プロセスの図

1-2. プロジェクト推進イメージ

Yame Genki Project

コミュニティFMを
活用した
地域活性化の
基盤構築

2年目（2011年度）

1. 地域資源の発掘・編集・発信という
「資源化プロセス」を身につける。
2. コミュニティ形成

3年目（2012年度）

資源化プロセスとコミュニティ、
そしてコミュニティFMなどのメ
ディアを活かし、市民一人一人
が主体的に地域活性化に取り
組んでいく。

1年目（2010年度）

1. 地域資源や課題の発見・共有
2. 地域活性化に関心のある人々の
コミュニティ形成に向けたきっかけづくり

インターネットラジオサイトや情報技術の活用促進

1-3. 3年間の活動概要

これら3年間の活動により、今後、八女市民が主体的にFM八女を活用したまちづくりを推進していくための基盤を構築してきた。

■ 2010年度(1年目):学生主体の活動

8月に合宿形式で、八女市の方々と飯盛研究室の学生が合同で、フィールドワーク、意見交換、提言発表会を実施した。1月、2月には、旧市町村ごとにフィールドワークとワークショップを行い、地域資源の再認識と地域活性化に関心のある人々が集まるコミュニティ機能の構築に取り組んだ。また、実験的インターネットラジオサイト「八女の話音」を制作することにより、今後、地域の人々の協働を促進し、資源を発掘、編集していくプラットフォームを設計した。

■ 2011年度(2年目):学生主体の活動から、学生と八女市民共同の活動へ

昨年度の成果を活用し、地域の人々の協働をもたらし、市民が自らが地域資源を発見、編集し、情報を外部に発信するという「資源化のプロセス」が起こる仕掛けをつくることを目指した。そのために、学生メンバーを増やし、4チーム体制で取り組んだ。ラジオチームは、コミュニティFM開局に向け、主に情報発信をテーマにしたワークショップを行った。若者チームは、地域を担う若者を育成するため、ジュニアケースメソッドとラジオ作成ワークショップを実施した。ITチームは、情報発信の際に必要な情報技術リテラシー向上を目的としたワークショップを開催した。そして、つながりチームは、地域を盛り上げる人やFM八女に関わる人のコミュニティ形成を目指して、様々な形でフィールドワークを実施した。これらの活動の成果として、2012年3月、雛の里八女ぼんぼりまつりにおいて、学生と市民の方が各々の活動を発表をする「八女の話」を企画、実行した。この中で、多くの市民の方のご協力をいただきながら、学生たちは祭りの運営も手伝わせてもらい、市民の方と学生たちが一緒にまちづくりに取り組むことが実現した。

■ 2012年度(3年目):学生と八女市民共同の活動

市民がラジオに何らかの形で参加する機会をつくり、一人でも多くの市民がFM八女に慣れ親しむ環境をつくることを目指した。その中でも、主体的にラジオを活用したまちづくりが起こるきっかけをつくることに注力した。そのために、学びの場の形成、実践活動、情報発信の3本柱で活動を推進した。具体的には、ラジオ番組「八女市ラジオまちづくり学校」の開校、市民学生連携活動の企画・推進、インターネットラジオサイト「八女の話音」におけるラジオ番組制作である。その結果、市民学生コミュニティが形成され、市民企画が実現した。また、市民がラジオ番組を制作したり、ラジオに出演した。そして、最終報告会では、市民より、ラジオ活用したまちづくりの提言があった。さらに、3年間の活動を通して、学生たちからも実現可能性の高い提言が生まれた。

1-4. プロジェクトメンバー（教職員）

本プロジェクトは、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス飯盛義徳研究室の教職員と学生が推進した。本研究室では、学生が主体的に考え、行動することを重視している。そのため、教職員はサポートに徹した。

■ 飯盛義徳：総責任者

慶應義塾大学総合政策学部准教授

・慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程修了、博士（経営学）。松下電器産業株式会社、飯盛教材株式会社などを経て現職。1999年、NPO鳳雛塾設立。2005年、慶應義塾大学環境情報学部専任講師。2008年、総合政策学部准教授、現在に至る。専門は、地域情報化、地域再生など。総務省・過疎問題懇談会委員などを務める。主著に『元気村はこう創る』、『社会イノベータ』ほか。地域実践活動に関する大学教員ネットワーク幹事。

■ 西田みづ恵：総括プロジェクトリーダー

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教（有期）

慶應義塾大学総合政策学部非常勤講師

・1982年、福岡県八女市生まれ。2007年、慶應義塾大学総合政策学部卒業後、同大学大学院政策・メディア研究科修士課程に進学し、2009年、修士（政策・メディア学）取得。現在、同大学総合政策学部非常勤講師。2012年度からは、東北公益文科大学非常勤講師を兼任。2005年、地域の若者のアントルプレナーシップ育成プロジェクト「V情報技術A+」（ビータプラス）を立ち上げ、高知県、佐賀県、和歌山県、福井県、神奈川県、鳥取県などに展開、活動継続中。2010年、地域で活躍する大学生チームの学び合いの場「結塾ネットワーク」を開始。2012年より、三重県尾鷲市元気プロジェクトプロジェクトマネージャーを兼任。NPO法人キャリア・エンパワメント理事。

■ 木口恒：アドバイザー、コンテンツ制作サポート

慶應義塾大学SFC研究所所員（訪問）

1-5. プロジェクトメンバー（学生）

今年度のメンバーは、昨年度からの継続メンバーである。昨年度は、ラジオチーム、若者チーム、ITチーム、つながりチームというチーム制で活動してきた。今年度は、この中から9名が残り、これまでの経験を活かして、1つのプロジェクトメンバーとして一致団結して取り組んだ。その内、1年目の学生リーダーでかつ福岡県（久留米市）出身の杉は、八女市に定期的に通いながら活動に注力し、8名とは別に動くことにより、地元密着型の活動を推進した。

- 学生リーダー：松田華保子(3年)
- 学生メンバー：杉智史(4年)、藤川徹也(4年)、西中彰平(4年) 、磯谷美帆(4年) 、高野未久(4年)、松野幸宗(3年)、津福和加子(3年)、河野佑佳(3年)

2

2012年度プロジェクト内容

2-1. 2012年度の目標・内容

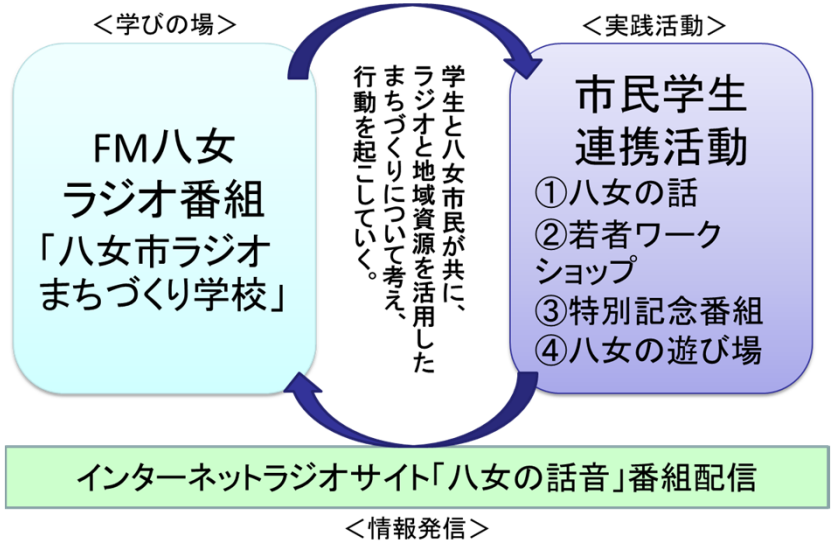
今年度は、市民がラジオに何らかの形で参加する機会をつくり、一人でも多くの市民がFM八女に慣れ親しむ環境をつくることを目指した。その中でも、主体的にラジオを活用したまちづくりが起こるきっかけをつくることに注力した。以下、具体的な目標とそれらを実現するための事業内容である。

■ 目標

1. ラジオや情報技術を活用した地域の情報を受発信する機会をつくる。
2. 市民がラジオを活用したまちづくりについて、アイディアや考えを出し、共有する機会をつくる。
3. 2を行動に起こすための、学び合い、励まし合い、共に活動する市民同士のつながりを促進する。

■ 事業内容

1. ラジオ番組「八女市ラジオまちづくり学校」の開校　→本報告書2-2
2. 市民学生連携活動の企画・推進　→本報告書2-3
3. インターネットラジオサイト「八女の話音」におけるラジオ番組制作による情報発信　→本報告書2-4



2-2. ラジオまちづくり学校

■ 概要と目的

ラジオに参加するきっかけづくりとまちづくりについて考える学びの場を形成するため、1年目に実施した「疑似体験まちづくりディスカッション」を、ラジオ番組として制作し、放送した。内容は、他地域のまちづくり事例を教材として、それを八女市に置き換えて、まちづくりのポイントについて、リスナーと考えていくものである。具体的には、1事例を4回に分けて学んでいく。1回目は、事例と宿題を発表し、2回目は、それを再放送した。3回目は、宿題について、大学生の考えを放送し、4回目に、リスナーから届いた考えを紹介した。これを3事例分、繰り返した。

■ 番組の放送時間・スケジュール

毎週土曜日、20時30分～21時

放送日	回	内容	タイトル
11/17	第1回	事例紹介・宿題発表	「一箱古本市」って、どんなまちづくり？
11/24	第2回	第1回の再放送	
12/1	第3回	学生の意見	「一箱古本市」、学生の考えは？
12/8	第4回	市民の意見・専門家からの講評	「一箱古本市」、八女市民の皆さんの考えは？
12/15	第5回	事例紹介・宿題発表	「村ぶろ」って、どんなまちづくり？
12/22	第6回	第5回の再放送	
12/29	第7回	学生の意見	「村ぶろ」、学生の考えは？
1/19	第8回	市民の意見・専門家からの講評	「村ぶろ」、八女市民の皆さんの考えは？
1/26	第9回	事例紹介・宿題発表	「都野ワイン」って、どんなまちづくり？
2/2	第10回	第9回の再放送	
2/9	第11回	学生の意見	「都野ワイン」、学生の考えは？
2/16	第12回	市民の意見・専門家からの講評	「都野ワイン」、八女市民の皆さんの考えは？

2-2-1. ラジオまちづくり学校の教材

■　教材１:「一箱古本市」の概要

これは、東京の下町（谷根千）で始まり、全国に広がっている古本を活用したまちづくりイベントの事例である。一箱古本市では、本好きの一般市民が店主となり、街中の店の軒先で、みかん箱1箱分の古本を販売する。このイベントにより、様々な効果が地域に現れる一方で、主人公たちはまちづくりならではの運営の難しさを抱える。どのようにしたら誰でも参加できるまちづくりができるのかその仕組みついて検討する。

■　教材2:「村ぶろ」の概要

これは、日本で唯一の飛び地、和歌山県北山村における、地域SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した村の応援団づくりと村内のコミュニティ形成の事例である。特産物である「じゃばら」加工商品の販売事業の一環として始まった情報技術を活用したまちづくりの可能性と課題について検討する。

■　教材3:「都野ワイン」の概要

これは、宮崎県都野町で、特産のぶどうを生かしたまちづくりの事例である。土づくりをもとに数々の国際的な賞をとるワイナリーになる一方で、地元では異端児とされる人々の努力と楽しむ姿勢がある。あらたな地域振興を始め、進めていくリーダーの地域との関わりについて検討する。

●「ラジオまちづくり学校」番組配信ページ
＜http://waon.fmyame.jp/school/＞

2-2-2. ラジオまちづくり学校の結果

ラジオまちづくり学校の放送により、各事例の宿題に対して、市民から以下の意見が集まった。

教材	宿題	市民からの意見（概要）
一箱古本市	①一箱古本市によって地域にはどのような変化が起こったと思いますか？	• 人の流れが生まれた。 • コミュニケーションが生まれた。 • 新しいことが生まれやすい場所」になった。
	②南陀楼さんの悩みを、みなさんならどのように解決しますか？	• 買い手がどう思うかが重要なので、買い手が選べるように、自由に売って良いのではないか。 • コンセプトを明確にして、最低限の決まりを作る。 • いろいろ問題は起こったとしても、何もしないよりはいい。問題が起こるたびに、ベクトルの先を、わざわざでも、みんなで確認し合うことが大切。
村ぶろ	①八女市だったら、どのような仕組みを作ると、市民一人一人が、地域のことや地域での自分の活動のことを情報発信していくようになると思いますか？	• FM八女を情報発信の拠点にするのが良いのではないでしょうか。 • 八女弁で意見を言えるブログをFM八女の事務局が開設する。 • インターネットだけではなく、ファックスなどのこれまでの方法で、発信出来ると良いと思います。 • 面白い意見を書き込んだ住民にFM八女に登場して頂く。
	②外部の地域の方々に、八女市を応援してもらうために、どのような取り組みができると思いますか？	• 八女市の住民が製造、販売等で提携している地域との交流の場をブログに用意する。 • 八女市に観光に来た方々の意見を載せるブログの場を設ける。 • ・面白い意見を書き込んだ方にはFM八女に登場して頂く。 • 八女市出身の人で、全国のあちこちに住んでいる人を集めて、それぞれが情報を発信する。 • 情報の発信の方法はなんでもいいと思いますが、ブログなどで公開するのが良いと思います。 • 結局は人が人を呼ぶのではないでしょうか。
都野ワイン	①八女市で、農産物など地域にあるものを活用して、新たな方法でまちづくりにチャレンジされている方は？	• 有限会社グリーンワールド八女 • 道の駅たちばな • 居酒屋古賀金の大将松内さん
	②八女市だったら、何が、地元の人が楽しめるような道具になるでしょうか？	イノシシや鹿のような有害鳥獣、八女茶、雛人形、提灯、紙、人形浄瑠璃など

2-3-1. 八女の話

■ 活動概要

八女の話では、プロジェクト終了後も、市民活動が継続的に八女市で行われるよう、その基盤となる繋がりを形成することを目標に活動してきた。2011年度3月に第一回八女の話を開催し、今年度は2012年9月の第二回八女の話と2013年3月の第三回八女の話を開催した。

● 八女の話内の主な活動

①市民活動を情報共有・情報発信すること。
②市民のアイデアを形にして実行すること。

● 活動の狙い

①の活動により、既存の活動団体同士のコラボレーションや、活動への新たな参加者、新たな活動を創出することを目指した。
②の活動により、実際にイベントや活動を起こすプロセスをたどることにより、新たな活動が創出しやすい環境を創ることを目指した。また、準備や当日運営を通して仲間との絆を深めることも狙いとしている。

● 実施プロセス

2012年6月23日 意見交換会	2012年9月1日 第二回 八女の話準備	2012年9月22日 ～9月23日 第二回 八女の話	2013年1月26日 第三回 八女の話準備	2013年3月9日 第三回 八女の話
【活動内容】 第二回八女の話におけるコンテンツ案検討 【場所】 八女土橋市場	【活動内容】 企画の計画発表、企画詰め ※スカイプにて会議中継 【場所】 八女土橋市場	【活動内容】 22日：活動発表、各企画実施 23日第2回サイバー鬼ごっこ 開催 【場所】八女市福島	【活動内容】 サイバー鬼ごっこ 企画検討 【場所】八女市観光課	【活動内容】 第3回サイバー鬼ごっこ、大懇親会実施 【場所】八女市福島

2-3-1-1. 第二回八女の話

■ 活動内容

● 日時

2012年9月22日～23日

● 場所

八女市福島、八女の祭「あかりとちゃっぽんぽん」において

● 目的

① 活動展示参加団体を増やすこと
② より多くの方々に活動を知っていただくこと
③ できるだけ多くのアイデアを実行すること

● 活動

① 各まちづくり活動団体による活動報告展示、発表
② 市民によるアイデア企画の実施

●八女の話会場の様子（撮影：松田華保子）

■ 第二回八女の話開催準備

● 日時

2012年9月1日

● 場所

八女土橋市場

● 活動内容

意見交換会の開催。第二回八女の話開催に向けて、企画を詰めた。市民10名、八女市観光課職員1名、八女市役所職員1名、学生2名の計14名で会議を進めた。メンバー持参のプロジェクタとWIFIを利用し、当日現場に来られないメンバーとスカイプで繋ぎ、会議を実施した。

●意見交換会の様子
（撮影：杉智史）

2-3-1-2. 第二回八女の話　活動発表団体

- 「アンテナエイト」

【活動内容】①食の開発、②他の団体、地域との交流、③情報発信
八女市を多くの人に知ってもらい、さらに新たな文化を発掘し、未来の子供に素敵な八女を残したいという思いを持ち活動している。
【発表方法】パネル展示、開発商品「「本町834サイダー」展示

- 「八女茶ごくごく」

【活動内容】八女をテーマにしたラジオ番組をPodcastという形で、インターネット上で配信。4名の市民メンバーで活動している。
【発表方法】パネル展示、ラジオ公開収録、USTREAM生放送

- 「未来の八女を作る会」

【活動内容】八女地域の新たな未来をつくるために、まちづくりを担う人を育て魅力あるイベントを企画する。
【発表方法】ムービー上映

- 八女市元気プロジェクト

【活動内容】地域と大学が連携しFM八女を活用するまちづくりの基盤を構築する。
【発表方法】パネル展示

●アンテナエイト展示の様子
（撮影：松田華保子）

●八女茶ごくごくラジオ公開収録の様子
（撮影：松田華保子）

●八女市元気プロジェクト展示の様子
（撮影：松田華保子）

2-3-1-3. 第二回八女の話　市民によるアイデア企画

- お茶の手もみ体験

【活動内容】一般の来場者の方々を対象とし、お茶の手もみを体験できるコーナーを設けた。
【主催】室園真澄氏

- スラックライン体験

【活動内容】スラックラインとは、2点間に張り渡した専用ラインの上で楽しむスポーツの名称である。パソコンを用いた動画による紹介の他に、実際に10m程間のある木と木の間にロープを張り、スラックラインの実演と一般の来場者向けの体験会を行った。
【主催】原野寛久氏

- 茶ポテトの販売

【活動内容】フライドポテトに八女茶の粉末と鎌倉の塩をまぶしたオリジナル商品をつくり、紙コップに入れ、1個100円で販売した。
【活動協力】室園真澄氏

- サイバー鬼ごっこの開催

【活動内容】フェイスブックと携帯電話やスマートフォンを用いて、情報発信しながら街中を楽しむ鬼ごっこを開催した。
【企画発案】末廣修一氏

●お茶の手もみ体験の様子
（撮影：松田華保子）

●スラックライン体験会の様子
（撮影：松田華保子）

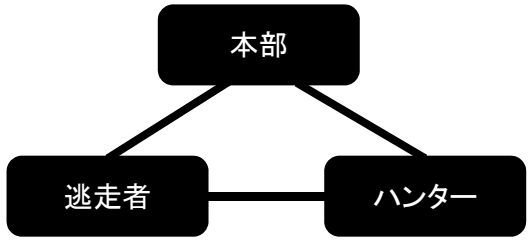
●茶ポテト販売の様子
（撮影：松田華保子）

2-3-1-4. 第三回八女の話

■ 茶のくに八女サイバー鬼ごっこ

【活動概要】フェイスブックを用いて街中で鬼ごっこを楽しむイベントであり、インターネットと現実を繋げるという新しさがある。
ゲームを運営する本部、ミッションをクリアし八女市の情報発信をしながら走り回る逃走者、その逃走者の写真を撮り本部へ通報するハンターと3通りの参加方法がある。（※詳しい実施方法については次ページ参照）
【日時】 2013年3月9日13時30分～16時30分
【場所】 八女市福島「雛の里八女ぼんぼりまつり」内
【目的】 八女市の中でより多くの人を繋げること
【活動参加者】市民7名、学生メンバー7名、八女市役所1名、八女市観光課の方4名、KIAIから2名の計 21名が参加。
他にもチラシやラジオを聞いて、当日飛び入りハンターとして市民8名が参加。

- 鬼ごっこの構成



【本部】フェイスブックにミッションを投稿する
※ミッション：八女市の魅力、外部に発信していきたいところを対象とする。
【逃走者】ミッションをクリアしながら逃げる
【ハンター】逃走者を写真で撮り捕まえる。

●茶のくに八女サイバー鬼ごっこFacebookグループページ
＜http://www.facebook.com/#!/yamecyberonigokko＞

2-3-1-5. 茶のくに八女サイバー鬼ごっこ 実施方法

■ ルール

①逃走者はハンターや、同じ逃走者に見つからないように指定された区域を逃げる。
②逃走者は、敵の逃走者またはハンターに「自分だとわかる」写真を撮られ、
　Facebookの指定されたページにアップされたら「－3点」
③自分が敵の写真をアップすると「＋1点」
④また本部から出題される「ミッション」をクリアするごとに「＋2点」
⑤最後に1番点数が多い人が勝ち

●逃走者の様子

■ フェイスブックページの利用

①逃走者の写真が投稿された様子

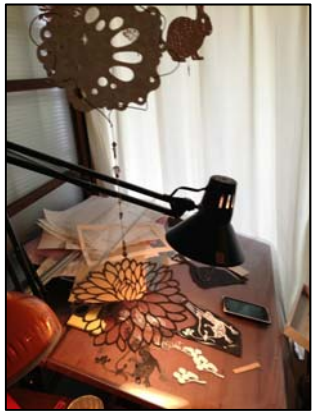
②逃走者へミッションが流れる様子

③Facebookに指定された写真を投稿し、
ミッションをクリアした様子

2-3-1-6. 八女の話　成果1

■ 活動成果

① ミッションにより、八女市内の様々な資源がFacebook上で情報発信された（以下、一部）。



2-3-1-7. 八女の話　成果2

■ 活動成果

②　市民主導で実施された企画が生まれた。

第二回八女の話では、「お茶の手もみ体験」と「スラックライン体験会」という意見交換会で出た案を、市民主導で実施することができた。市民の企画担当者は、9月の意見交換会開催時に企画実施方法についてメンバーと共有し、八女の話当日においても準備から運営まで全てを担当者主導で行い、多くのお客様に立ち寄ってもらった。昨年度までは、多くの企画が学生主動で行われてきたが、今年度、八女の話にて市民主導の企画を実施できたことは、新しい活動が創出されるプラットフォーム形成につながる大きな成果であると考える。

③　自発的な市民の新規活動参加者が生まれた。

第二回八女の話におけるサイバー鬼ごっこでは、多くの来場者が訪れる「あかりとちゃっぽんぽん」の祭にて、イベントの告知を何度も行い、ハンターとして当日市民10名に活動参加してもらうことができた。第三回八女の話におけるサイバー鬼ごっこでは、ハンターだけでなく逃走者にも自由に参加をしてもらいたいと考え、広報八女でも告知を行った。結果として、市民1名が実際に広報での告知を見て、フェイスブックを通して連絡し、当日の活動にも逃走者として参加した。ハンターとしても8名の市民が参加した。これまでメンバーが固定しがちであった八女の話において、自発的な新規活動参加者を生み出すことができた。

④　「茶のくに八女サイバー鬼ごっこFacebookグループ」というコミュニティが形成された。

「茶のくに八女サイバー鬼ごっこFacebookグループ」は、インターネット上のみでの利用ではなく、現実世界での鬼ごっこと連動させることにより、プロジェクト全体の目的である市民の主体的な情報発信とコミュニティの形成が達成したことを表している。　Facebookページは、ページに対して「いいね!」ボタンを押すことで、自身のウォールに「いいね!」を押したページの情報が自動的に掲載されるようになっている。この機能に着目し、茶のくに八女サイバー鬼ごっこページへの「いいね!」ボタンの数を増やしていくことで、自動的に情報を発信できるユーザーを増やしていった。現在ページに対しては44名から「いいね!」ボタンが押されている。3月9日に行われたサイバー鬼ごっこでは18人が逃げる側として参加、11人が捕まえる側で参加をした。3月以降は、現管理人である市民に、サイトやサイバー鬼ごっこの仕組みを譲渡し、まちづくり活動や八女市内での活動に活用してもらう予定である。市民のFacebookの投稿には、今後もこのサイバー鬼ごっこの仕組みを使用しつつ、『「婚活バージョン」「中学生向け体力向上鍛錬バージョン」「年配者向けののんびりバージョン」そして「紙と鉛筆を使うアナログバージョン」とバリエーションを増やしてまた楽しみたい』と述べられている。

2-3-2. 若者ワークショップ

■ 概要

まちづくりを進めていく上で、これからの地域を担う若者の視点は欠かせないものである。また、八女市元気プロジェクトが2010年度市民に行ったアンケートの結果からも、若者の地域活動への参加を望む声が多く見られた。そこで、八女市元気プロジェクトでは、そうしたまちづくり活動を担う次世代の育成活動を昨年度から行ってきた。具体的には、八女市在住または在学の高校生を対象に、地域の魅力や地域が抱える課題を考えるディスカッションを行ったり、オリジナルのインターネットラジオ番組を制作する、「若者ワークショップ」を実施した。本ワークショップを行うことにより、若者の八女市への愛着や問題意識、情報発信意欲の醸成を目指していた。

■ 内容

今年度は、9月24日～26日の3日間、福岡県立輝翔館中等教育学校（八女市黒木町）にて、若者ワークショップを実施した。
参加者は、高校1・2年生の有志の生徒10名で、内2名が昨年度からの継続参加であった。内容の詳細は以下の通りである。

● 1日目：地域ディスカッション

高知県の土佐道路にあるプラタナス並木に関する事例教材を用い、様々な立場や考えを持った人がいる中で、地域資源をどのように守っていけばいいのかを考えるディスカッションを行った。

●地域ディスカッションの様子

● 2日目：コミュニティFM講座

FM八女を見学し、コミュニティFMが地域にあるとどんな良いことがあるか、ディスカッションを通して考えた。また、自分だったら、FM八女でどんな番組を作りたいか、考えてもらった。

●FM八女見学の様子

● 3日目：ラジオ番組制作

2グループに分かれ、「八女市の若者による八女市の魅力を伝えるラジオ」の制作を行った。

2-3-2-1. ワークショップ終了後のアンケート結果

- 本日のディスカッションを通して、気づいたことや感じたことを教えてください。（1日目）

市民それぞれ意見があり、その意見はどれも筋が通っている。そんな市民の意見をうまくまとめて、解決するのは難しいけれど、解決していかなければならないと思った。１人では解決できないので、市民の力を借りて解決するものだとも思った。地域のことについてディスカッションすることがないので、とてもいい機会となった。／私はなかなか、こういったディスカッションをする機会がなかったので、今日、取り組んだことはすごく新鮮で、貴重なものでした。／自分自身、地元の地域活性化についてプロジェクトを行うために似たようなディスカッションをしたので、比較しながらできた。先輩方がほとんどだったので自分とは違う視点からの意見をきくことができたので、本当に良かったです。／ディスカッションは普段なかなかしないのですごく緊張しました。かなり難しかったし、自分の意見を言うことはこんなに勇気がいるんだと気づかされました。もっともっと成長しないといけないと思ったし、いつでも自分の意見を言えるようにしたいです。

- FM八女を見学してみて、気づいたことや感じたことを教えてください。（2日目）

初めて見学した。生放送しているとき、話している人の顔がきらきらしていて、ほっこりした気持ちになりました。／地方のラジオ局はその土地ならではの出演者やコーナーもあって、スゴく良いなぁと思いました。／とにかくすごかったです。もちろん初めて入ったのですが、あそこからラジオとして流せるので本当にすごいです。どのようにしてラジオを流しているのかを知ることが出来たし、直接中にも入ったので、本当に貴重な体験になったし、まずFM八女ができたのも今回初めて知ったので良かったと思っています。／実際に、ヘッドホンをつけて、マイクで喋ったり、音楽を流せたことが楽しかったです。／ラジオスタジオを見たのは初めてで、驚くようなことがたくさんあり、とても興味深かったです。／ああいうのが八女にあることを知らなかったのでおどろきがありました。人数は少ないといっていましたし、まだできたばかりらしいので、長く続いていただきたいと思います。

- 見学後のディスカッションを通して、気づいたことや感じたことを教えてください。（2日目）

自分が番組を流す立場に立ってみて、時間帯や内容を考えれた。／様々な意見を共有していくことで、新しい発想をもつことができました。私の班は「タイムスケジュール風」につくりました。先パイたちの意見はとてもユニークなものばかりで、私には思いつかないようなものばかりでした。／FM八女を使ってできることはたくさんあるなと感じました。グループで分かれて話し合う時はその時間帯の視聴者の年齢を考えながら考えていきました。そうやって考えていくと、けっこう楽しかったりしました。／ラジオ放送を使って、地域のニュースを紹介していくのはとてもいいと思った。テレビとは少し違った楽しみがラジオ放送にはあるなぁと思った。／各時間ごとの年代に合わせて、ジャンルを設定して、番組を決めていくのは、思いの外、難しかったです。

2-3-2-2. 若者ワークショップの成果

■ 完成したラジオ番組と配信

- グループ1のラジオ番組

【テーマ】八女市の観光地と特産品　【ターゲット】八女市内の家族

【内容】八女市のおすすめスポット、お茶を使ったメニュー、お茶の淹れ方を、ラップ調などで楽しく紹介する。

- グループ2のラジオ番組

【テーマ】八女市の観光地とイベント　【ターゲット】八女市内の同年代を中心とした全世代

【内容】八女市民が観光客を案内するというストーリー仕立てで、八女市の伝統的な町並みや、お祭りについて紹介する。

- 配信

・インターネットラジオ番組「YY RADIO（Yame Young Radio）」にて、上記の番組を配信している。

・FM八女の八女市元気プロジェクト特別記念番組にて、ワークショップ参加者5名がゲスト出演し、ラジオ番組制作秘話を語ると共に、制作した番組を放送した。

■ 成果

今年度の成果として大きいのは、若者世代のFM八女への理解を深めることができた点だと思われる。ワークショップ参加者のほとんどが、初め、八女市にコミュニティFMができたことを知らなかったが、FM八女を見学した後の感想では、「ラジオスタジオを見たのは初めてで、驚くようなことがたくさんあり、とても興味深かったです。」「地方のラジオ局はその土地ならではの出演者やコーナーもあって、スゴく良いなぁと思いました。」というような声があり、コミュニティFMへの興味を持つきっかけを作ることができた。その後、コミュニティFMが地域にあるとどんなことが良いのか、自分だったらどんな番組を作るかを話し合った際には、「FM八女を使ってできることはたくさんあるなと感じました。」「ラジオ放送を使って、地域のニュースを紹介していくのはとてもいいと思った。」「テレビとは少し違った楽しみがラジオ放送にはあるなぁと思った。」というような意見があり、コミュニティFMの活用について前向きな姿勢が多くみられ、翌日のラジオ番組作成のフェーズにおいてもそれが生かされているように感じた。そして今回特徴的だったのは、昨年度の若者ワークショップ参加者の中から、継続しての参加者が出たことであり、継続参加の生徒が新規参加の生徒を引っ張って作業を進める場面もみられたことである。このような継続性がみられたことや、実際に高校生がFM八女への出演を果たし、高校生ならではの情報発信を達成できたことで、今後の八女市における、若者世代の活動の広がりも期待できるのではないかと感じた。

2-3-3. 八女市元気プロジェクト特別記念番組

■ 概要

2012年12月15日（土）、18時から24時までの6時間の枠で、「八女市元気プロジェクト特別記念番組」を放送した。放送枠のうち、2時間半を生放送し、残りは収録したものを流した。プロジェクト学生メンバーの他、これまで本プロジェクトにおいて関わりのあった、八女茶ごくごく、アンテナエイト、輝翔館中等教育学校の有志の生徒と、オープニングおよびエンディングを含め、7つの番組を放送した。

キューシートの作成、リクエスト曲の選定は、番組内容に合わせて、学生メンバーが中心となり、FM八女スタッフのアドバイスをもとに番組を制作した。

収録および生放送については、各番組につき1名ずつFM八女スタッフがミキサーを担当し、学生がパーソナリティをつとめ、市民をゲストに迎えた。

■ 目的

① 学生が番組制作にチャレンジすることで、一般市民でもできることを示す。
② 学生が媒介となることにより、市民が出演できるようにすること。

●打ち合わせの様子（撮影：木口恒）

●収録の様子（撮影：木口恒）

2-3-3-1. 八女市元気プロジェクト特別記念番組の結果

■ 番組内容

時間	番組名	出演者・ゲスト	形態
18:00～	オープニング	【学生】西中、藤川、松田	生・収録
18:30～	YY RADIO	【市民】輝翔館中等教育学校（有志生徒）、 【学生】磯谷、高野	収録
19:00～	輪読ラジオ	【学生】西中・藤川・津福・松野	生・収録
19:30～	市民枠（アンテナエイト）	【市民】アンテナエイト、 【学生】西中、藤川、松田	生・収録
（八女市からのお知らせ、ラジオまちづくり学校）			
21:00～	八女市元気ラジオ	学生メンバー全員	生・収録
21:30～	市民枠（八女茶ごくごく）	【市民】八女茶ごくごく、 【学生】西中、津福	生・収録
22:00～	From Now On	【研究所員】木口、【学生】松野	生
22:30～	八女の遊びBar	【学生】杉 【FM八女】高木	生
23:30～	エンディング	【学生】杉、藤川、津福	生

2-3-3-2. 八女市元気プロジェクト特別記念番組の成果

■ リスナーからのメッセージ(一部抜粋)

● リスナーAさん
慶応ボーイ＆慶応ガールな皆さん、お疲れ様です。
昨夜は打ち合わせお疲れ様でした。
今宵の夜は元気プロジェクトの面々とふけていくって感じですね。
頑張って下さい！いっぱいメッセージがくるといいですね。
応援しています！！
では、のちほど。

● リスナーBさん
子供からのメッセージです。慶應大学のお兄ちゃんお姉ちゃん
ラジオ頑張ってね！僕は寝る時間なのでもう寝ます！おやすみなさい。

● リスナーCさん
最後はみんなで、「ならね～！」
ならね～！は、またね～！ってことだよ！
by親心より
ほんとうにお疲れ様でした。スタッフのみなさんも！

この他にも多くのメッセージをいただきました。

●スタジオの様子(撮影:木口恒)

●集合写真(撮影:井手東一郎氏)

2-3-4. 茶のくにで遊ぶ会

■ 概要

これまで八女市元気プロジェクトが行ってきた市民学生連携活動を通じて八女市内に新たな市民団体『茶のくにで遊ぶ会』が生まれた。これは、「ワカモノに遊び場を」をコンセプトに、八女市内の市民が行政、職業の壁を越えて集い、7月13日から始めた活動である。結成メンバーは辻田理絵氏、井手薫氏、杉本幸知世氏、松内通寛氏、高木祥平氏、川崎麻耶氏、そして本プロジェクトの杉智史である。

今年度は2回のイベントを行った。11月17日に上陽のほたると石橋の館にてイベント『@HOME』、3月3日福島地域の土橋市場で『@遊VIVA』を行った。イベント案、出店、出演交渉チラシ作成、協賛、広報活動全てを市民の手で行った。

	@Home	@遊VIVA
開催日	2012年11月17日	2013年3月3日
場所	上陽のほたると石橋の館	福島地域の土橋市場
目的	① 水害で被災した上陽町で行うことで被災地を盛り上げる。 ② 茶のくにで遊ぶ会の活動を知ってもらう。	① 雛の里八女ぼんぼりまつりを盛り上げる。 ② 土橋市場という場所を情報発信する。
出店団体	9団体	19団体
協賛	飲食店を中心に	22店舗
来場者	約100名	約300名

●市民作成のチラシ

2-3-4-1. イベントの詳細

■『@HOME』

7月13日からミーティングを行い、11月14日八女市上陽町ほたると石橋の館にてイベント「@HOME」を行った。

「ワカモノに遊び場を」という目的に加え、水害で被災した上陽町で行うことで被災地を盛り上げたいという思いと、これから八女市内で茶のくにで遊ぶ会の活動を知ってもらうための広報も合わせて、イベントを開催した。イベントには八女市内のバンド3団体、フラメンコ団体に出演いただいた。さらに八女市内外の飲食、雑貨など5店舗が出店した。また、飲食店を中心に協賛が集まった。家族連れでの来場者が多く、100名以上（（子供の人数を除く)の方々に楽しんでもらうことができた。八女市元気プロジェクトから生まれた初めての市民団体として行った最初のイベントであったが、多くの市民の協力を得て無事成功することができた。このイベントを機に市民団体に参加する方が大幅に増えた。イベントの目的であった茶のくにで遊ぶ会という市民団体の認知に繋がったといえる。

●会場の様子1

●会場の様子2

■『@遊VIVA』

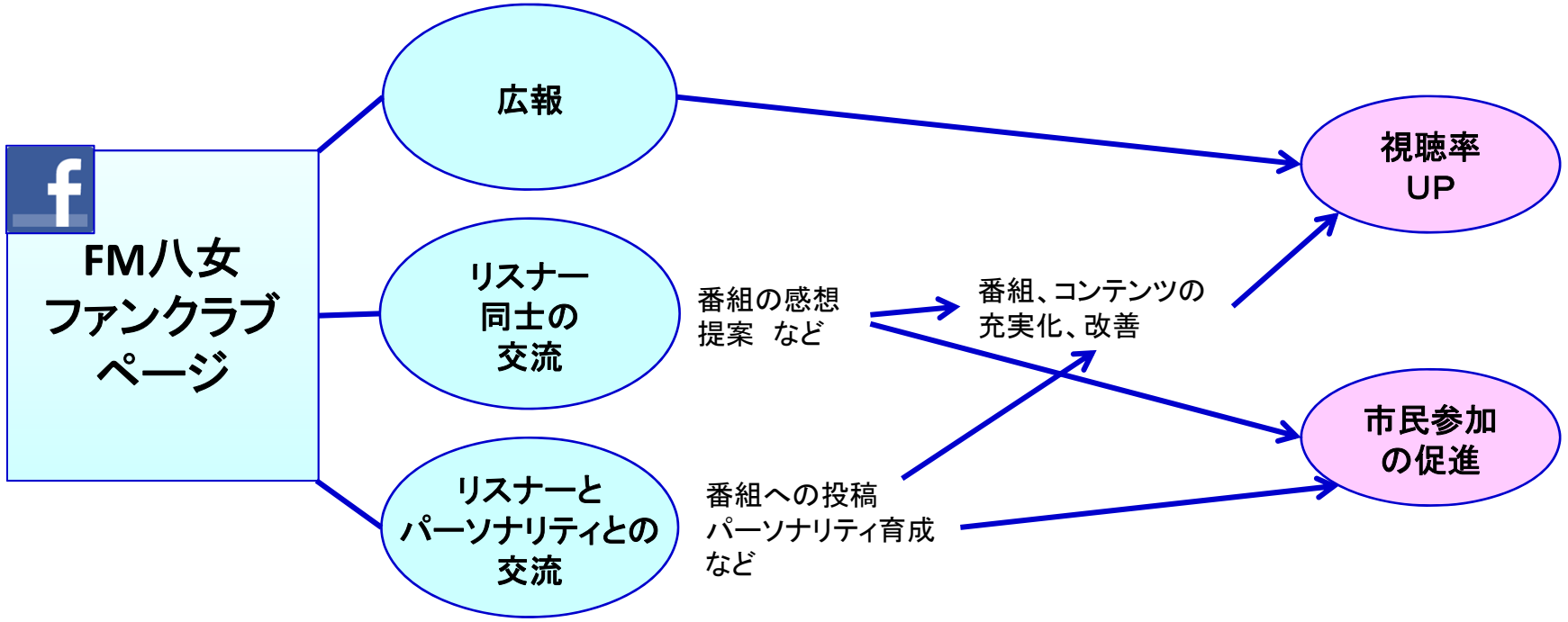
11月17日の@HOME後、茶のくにで遊ぶ会の出店者及びその友人が茶のくにで遊ぶ会に入り、運営メンバーが約15人となった。ミーティングを10回ほど行い、3月3日八女市土橋市場にて「@遊VIVA」というネーミングのイベントを開催した。「@遊VIVA」には、茶のくにで遊ぶ会の目的であるワカモノに遊び場を」の遊び場を意味し、VIVA＝万歳というワカモノらしいフレーズを入れ込んだ。目的は3月3日のぼんぼり祭りを盛り上げること、土橋市場という場所を情報発信することでワカモノの遊び場を増やしていくことである。イベントにはマルシェの出店に12店舗、バンドやダンスの出演に7団体、協賛も八女市内外の飲食店を中心に22店舗から集まり、地域の協力を元にイベントを実現させた。イベントチラシ、ポスター作成も会のメンバーで行い、300人近くの集客に至った。市民を中心に学生との共同で行ったイベントとして八女市内でも認知され、八女市内の他イベント主催者から次回開催の依頼もきている。それを受け、来年度以降も活動するよう、市民も動いている。

●運営メンバー

2-3-5. FM八女ファンクラブページの開設会議

■ 概要

本プロジェクトに参加している市民と、FM八女のファンクラブを立ち上げに際し、まず、Facebook上にコミュニティページを開設することを目指した。具体的には、ページ上の投稿において、FM八女の情報や、広報を行い、それに対して「いいね！」やコメントを通して、FM八女に対する地域住民の関心を促し、市民参加の頻度や視聴率を向上させることである。このファンクラブのターゲットは、FM八女の視聴可能エリアの住民であるため、グローバルに開かれているFacebookというツールの中で、エリアや人に境界をどう作っていくかが鍵となる。また、今後サイマル放送が始まる可能性もあるため、エリアや人の境界の変化など将来的な仕組み作りなども考えていく必要がある。Facebookにファンクラブページを開設することで、リスナー同士の交流だけでなく、パーソナリティーとリスナーの交流を生みだしたり、ラジオ番組への投稿などとしても活用することができたり、多様な場面に応用できる可能性がある。



2-3-5-1. FM八女ファンクラブページ開設における検討事項

FM八女ファンクラブページ開設にあたり、ファンクラブページの種類や特徴、想定される問題点、それに対する対応策について、検討したことを記述する。

■ 前提

Facebookのファンページには、企業や著名人などの本人がファンのために開設する公式ファンページと、ブランドやアーティストのためにファンが開設するコミュニティページとがある。今回は、後者の形でのファンクラブページを作成することになった。ファンページを開設する場合に重要なことは、「1,なぜファンページを開設するのか、2,どんな人にファンになってもらうか、3,どのような運用方法をとるか、」といった3点がある。1,については根本的な目的だけでなく、通常のウェブサイトとの情報の精査やtwitterなど別のインターネットサービスとの連携なども考慮に入れることが前提になっている。2,については、地域、性別、年齢など様々な要因が考慮できる。3,については管理者の人数や見せ方などが考慮できる。これらの前提を確認した上で、このファンクラブページを使って、住民がいかに主体的に活動を行える環境にしていくかが最も重要なことである。

■ 問題と規約

Facebookに限らず、このようなインターネット上のコミュニティページには、スパムやあらし、ヘイトスピーチや無関係なトピックが投稿されるなどの問題が生じる可能性が高い。ゆえにそれらが起きないように、もしくは起きた時にどうするかという規約やルール作りが重要になる。今回のFM八女のコミュニティページ開設にあたって、管理者がコミュニティページを円滑に運営していく上で規約やモラルに関して、facebookの定める様々な規約にのっとった上で作成した。しかし、今回は、FM八女視聴可能エリアの住民を対象としたコミュニティとして境界を設けており、ある特定の地域の内部の人間がコミュニケーションをとりあうことになる。これは、つながりのネットワークにおいて次数が低くなる確立が高くなる。つまり、お互いの顔が分かる可能性が高く、信頼性が高くなる。地域のつながりによる信頼性を根本に考慮すれば、SNSの管理に専門性がなくても、安全安心にコミュニティページ運用することが可能になる。このことから初期段階では、ファンクラブへの参加者を限定するのが良い。そして、サイマル放送が始まったときに、様々な状況に対応できるような体制をつくっていけると市民参加をより促進できるのではないだろうか。

2-3-5-2　FM八女ファンクラブページの運用

FM八女ファンクラブページ運用に向けて、検討した運用方法と規約例である。

■ 運用方法

管理人キャラクター (※コメント管理、記事の投稿はFM八女が担当)		複数人として個人個人をみせる。コミュニティ参加者には管理者という見せ方をしないようにする。
参加者の選定		八女市内在住のみ（メッセージによる申請）
更新頻度		未定
コメントへの対応		住民同士のモラルの範囲で自己組織的にルールが作られていくのが良い。
迷惑行為への対応	スパム、あらし	迷惑行為者へ通告。行動が改善されない場合はコミュニティから退場してもらう。
	ヘイトスピーチ	リプライは必須。コメントへの対応の範囲でお互いの意見を述べ合う。
	無関係なトピック	八女市と関係があり、個人利益を目的としない情報以外を無関係なものとする。

■ 規約例

FM 八女ファンクラブ（非公式）（仮）

管理者としての規約

プライバシー

・facebook の定める「データの使用に関するポリシー」を遵守し、プライバシーを保護するものとする。

法的権利と遵守

・非合法な行為、誤解を招く行為、悪質な行為、差別的行為を一切行わない
・不正な情報、虚偽の個人情報の提供を一切行わない
・他者の権利を侵害、妨害することは一切行わない
・他の利用者への脅迫、いじめ、嫌がらせ行為は一切行わない
・このページを離れた場所における他の人の情報へのアクセス、Facebook ページへの干渉を行わない

非個人利益

・個人的利益のための商用メッセージは投稿しない

管理、運営

・アカウントの連絡先情報を正確かつ最新の状態に保つ
・アカウントの管理権をむやみに他の者に譲渡しない
・ページへの「いいね！」や Facebook 機能を使った何らかの動作を参加または応募の条件としない
・「いいね！」ボタンなどの Facebook 機能をプロモーションの投票手段として使用しない

その他

・コミュニティページにおけるトラブルについて一切の責任を負わない
・Facebook の定める利用規約に準拠し、健全な活動をコミュニティページにて行う

2-3-5-3. FM八女ファンクラブページ開設会議の結果

FM八女ファンクラブページの開設はこれからであるが、学生と市民が話し合いをすることで、実現可能性が高まった。

■ 結果

- FM八女ファンクラブページは当初、住民のみの非公式なファンクラブの方がよいのではないかや、規約やページの設計などは学生が行い、それを住民に引き継ぐ形の方がスピード的によいのではないかという意見が出た。
- その後、市民と学生との議論により、「情報の投稿はFM八女に打診してみよう」、「規約はこれ（学生のもの）を基準にしつつ、とにかくやってみてどんどん新しいものを作っていこう」という意見も出るようになった。また、ページの設計もある市民が引き受けてくれることになった。このような姿勢から、住民がFM八女に関する活動に主体的に取り組んでいこうとしていることがわかる。

● 可能性

- このファンクラブには様々な可能性が期待できる。FM八女から番組の情報発信をすることは、単純な視聴率の向上につながるだろう。また、ファンクラブページ上でのファン同士の交流が活発になり、番組に対する感想や提案が多くなれば、番組の改善につながる可能性もある。さらに、ファンクラブページで番組への投稿を募れば、ラジオとしての双方なコミュニケーションをより密にできるだろう。そして、視聴率や番組の質の向上だけでなく、パーソナリティの育成や募集、企画の作成など市民参加を促進させることも可能になる。例えば、FM八女のパーソナリティの方々がうまく話すコツやパーソナリティとして重要な心得などを追加情報として発信することができる。また番組のコンセプトだけ提示し、それに対する具体的な案や「こんなことやってほしい」という住民の意見を聞くツールとしても活用できるだろう。
- ラジオのメリットはオンタイムでの双方向なコミュニケーションである一方、コミュニティFMは「オンタイム」にこだわる必要はないのではないだろうか。Facebookや日常でも双方向なやり取りを通して、ラジオを住民といっしょに作っていく姿勢が重要であり、ファンクラブページはそれを実現するツールとなりえると考えられる。

2-4. 八女の話音

■ 概要

八女の話音とは、八女市元気プロジェクトが運営している実験的ラジオサイトである。2011年1月の『八女市元気ラジオ』配信開始から現在に至るまで7つのインターネットラジオ番組を配信している。ラジオ番組の制作は一見難しく思われるが、学生でも手軽に制作できることをアピールするとともに、FM八女への市民の参加を促すことを目的としている。
(八女の話音URL: http://waon.fmyame.jp/)

八女の話音ロゴ

■ 八女の話音配信番組

● 八女市元気ラジオ

2011年1月に配信が開始された八女市元気プロジェクトの学生メンバーによる番組。学生の日常生活や八女市で行われるワークショップの案内、八女市出張の報告などを行っている。

● RADIO RDP

飯盛義徳研究室内のプロジェクト「RDP」による番組。コンピュータやiPhoneなどの情報発信ツールや地域活性化に応用できる可能性を秘めた広告、キャンペーンの紹介を行っている。

● 楽生ラジオ

八女市元気プロジェクトが2011年度に開催した「楽生くらぶ」において、八女市民が作成したラジオ番組を配信している。八女市の魅力を市民ならではの視点から紹介している。

● YY RADIO

YY RADIO(Yame Young Radio)は2011年度、2012年度に輝翔館中等教育学校の生徒が作成したラジオ番組である。八女市の魅力をテーマに情報収集、収録、編集まで自分たちで行った。

● 八女市ラジオまちづくり学校

他地域の事例を通して、まちづくりのポイントについて、リスナーと一緒に考えることを目的としている。2012年11月17日から毎週土曜日にFM八女で実際に放送されたものを配信している。

● YAME-SHI NETWORK STATION

2011年度に「繋がりチーム」が作成したラジオ番組。地域の方との出会いからの気づき・人と人のネットワークについてインタビューを交えながら紹介している。

2-4-1. 八女の話音　結果1

■ 番組数

インターネットラジオサイト「八女の話音」において、合計7番組を制作した。

■ 配信数

各番組の配信数は以下の通りである（2013年3月24日現在）。全番組合計で、182回配信した。

●八女市元気ラジオ
67回

●RADIO RDP
56回

●YAME-SHI NETWORK STATION
3回

●楽生ラジオ
10回

●八女市ラジオまちづくり学校
9回

●YY RADIO
4回

●YAME GREENTEA CAFÉ
3回

2-4-2. 八女の話音の結果2

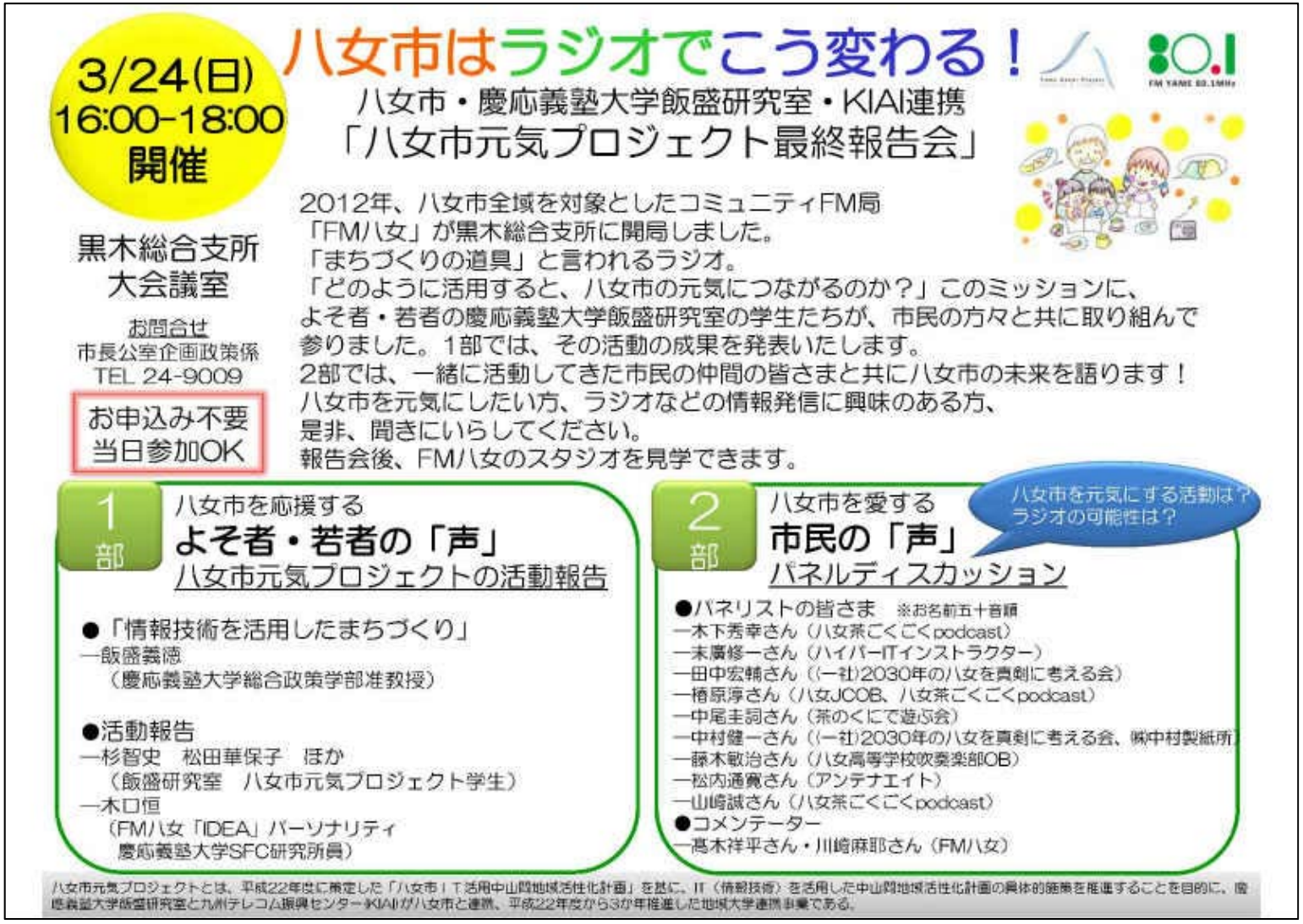
■ アクセス数

合計1,066アクセス（（2011年12月17日～2013年2月17日）※Google Analyticsによる解析

■ アクセス数の推移 （2011年12月17日～2013年2月17日）

2-5. 最終報告会

3年間の集大成として、最終報告会を開催した。2部制にすることにより、学生の発表だけではなく、市民も発表できる場を作った。



2012年度八女市元気プロジェクト

2-5-1. 最終報告会　アンケート結果（選択回答）

22名（男性15名、女性1名、無回答1名）、10代から60代まで各代に1人以上の来場者が、アンケートに回答してくれた。以下、結果である（単位：人）。

■ Q1. この最終報告会を何で知りましたか。

FM八女	ちらし	学生から	市民から	その他	回答なし
6	4	4	1	5	1

※「その他」は5人とも「市役所から」であった。

■ Q2. FM八女のラジオをどのぐらいの頻度で聞いていますか。

毎日	平日	休日	週に数回	ほとんど聞かない	聞いたことがない
10	1	0	5	5	0

■ Q3. 本プロジェクト制作のインターネットラジオサイト「八女の話音」を見たことがありますか。

「はい」：7人、「いいえ」：14人、 無回答：1名

● Q3.1.「はい」とお答えした方にお伺いします。番組を聞いたことがありますか。

「はい」：5人、「いいえ」：2人

■ Q4. 報告会でご紹介した木口恒のラジオ番組「IDEA!」を聞いたことがありますか。

「はい」：0、「いいえ」：20、 無回答：2

■ Q6. ラジオに出演してみたいと思いますか。

「はい」：6、「いいえ」：13、 無回答：3

■ Q7. ラジオで番組を持ってみたいと思いますか。

「はい」：6、「いいえ」：12、 無回答：4

■ Q8 八女市元気プロジェクトの活動に参加したことがありましたか。

「はい」：14、「いいえ」：6、 無回答：2

年代		住まい	
10代	1	八女	9
20代	1	黒木	3
30代	4	星野	0
40代	3	矢部	2
50代	6	上陽	2
60代	4	立花	3
70代	1	市外	2
80代以上	0		
回答なし	1	回答なし	1

2-5-2. 最終報告会　アンケート結果（記述回答Q5）

■ Q5. FM八女にどのような番組を希望しますか。

- この1年で地域のイベントや地域で活動されている方の紹介は十分されたと思うので、今後、本当の意味での地元密着の放送を聞いてみたいです。
- 地域の情報を楽しく聞ける番組。人の生活が感じられるもの。
- 八女の昔話、民謡、伝統芸能の音楽を紹介するコーナー＋末廣さん提案（校歌）・八女の住職の法話、悩み事相談コーナー
- 地域で個人や団体で活動していることを、取り上げて紹介してほしい。
- 地域のまだ知られていない見どころ、名所の紹介
- 自分の子供が小さかった頃、昔話を聞いていた頃を大人になった今でもなつかしいと言って、孫にも話していると言います。私も子供たち語り部とか昔話に興味があり話しています。このような子供にやさしい心を故郷で育ててあげるのもFMラジオに取り組んでもらえたらと思います。
- 一般市民の参加
- 他のFM番組等を聞いて、もっと勉強しておもしろい番組づくりにつとめてほしい。
- いつでもどこでも聞ける番組を作ってほしい。番組が少なすぎる。
- 若い世代はなかなかラジオを聴こうという気にならないので、若者も楽しめるような番組があると良いと思います！
- 発表内容のように市民のFMになります様に協力していきたい。
- 結果としてFM八女の効果が益々増幅していくことを期待します。ファンが増えていくような番組を！たとえば、どこに行けば安くて、最高のものが食べれる、見れる情報発信。
- 地域の農業についてもっと関係団体を交えた番組や農業情報を流してほしい。
- FM八女自主制作番組をもう少し増やしてほしい。

2-5-3. 最終報告会　アンケート結果（記述回答Q9）

■ Q9.報告会第1部（学生たちの報告会）のご感想をお聞かせください。

- 大変参考になる報告でした。今後もぜひ八女での活動を楽しみにしています。
- 域学連携、今後楽しみです。私の仕事分野でも活用できそうです。
- 3年間、本当にご苦労様でした。そして、ありがとう。皆さんにとっては、何の縁もない八女をこんなに一生懸命にやってくれて感心します。最初の情熱と夢が、3年間で情熱と具体化された過程をみて、学生さんが成長された様子が良く理解できました。皆様が耕し、成長したものを、私たちの手で更に成長、育てていきますので、時には堆肥が必要ですので、肥やりにお越しください。
- 八女のために良く頑張って、いただいていると感心いたします。私たちも一緒に参画してみたいと思いました。
- 八女のためにお疲れ様です。ありがとうございます。若い人たちをうらやましく思います。
- 3年間の集大成、実感しました。様々な取り組みをされていて、八女を元気にするために頑張っている思いが伝わりました。お疲れ様でした！
- おつかれさまでした。これからも八女に来てくださいね。
- 12/27のNPO鳳雛塾が良かった。東京から何度も足を運びいただき有難うございました。
- テレビ、インターネット、新聞など、たくさんの情報伝達ツールがある中で、ラジオの持つ魅力、特性を活かしたフィールドワークであったり、提案があればもっと良かったのかなと思った。
- 情報は取りに行く人にしか届かないではダメだと感じた。今日まで3回しか参加できなかったが、もっと情報が欲しかった。
- ありがとう。これからも活動を続けてほしい。行事に参加し、自分も深めていく。
- 資本財としての市民の掘り起し、また、八女エリアだけの活動にならないような発案をすべきでは。
- 代表で一人が説明した方が良いのではないでしょうか。めまぐるしく説明が変わるので何を言いたいのかわかりにくかった。今後の活動に期待します。年齢層の違いを感じました。リスナーが若者で同年代であれば受けると思われます。今後のみなさんの活動は、八女の発展に大きな力（源）となっていくのではないでしょうか。今後も頑張ってください。
- 年配の人たちもいるのに挨拶を強要するようなことはどうかと思います。
- 八女市民として元気プロジェクトを展開していただき有難く思います。インターネット、FM八女双方の今後の活用の大きな可能性について考えさせられました。行政からの情報提供はもとより市民側の立場からの利活用について、自然体で考えていかなければと強く思いました。

2-5-4. 最終報告会　アンケート結果（記述回答Q10）

■ Q10.報告会第2部（市民のパネルディスカッション）のご感想をお聞かせください。

- 八女の可能性を感じました！元気が出ました。
- いいパネルディスカッションでした。飯盛先生、ナイスなリードでした。
- いろんな意見を聞かせていただいて、また違う発見をしました。私も意見を言いたかったが、初めてでしたので、言えませんでした。
- このような八女市のためのプロジェクトがあることを初めて知った者です。もっともっと一般市民に啓蒙してほしいと思います。広報で大いに宣伝してほしいと思います。
- 皆さんそれぞれ頑張ってあるのが分かりました。八女の事を考えてある方々。これからも頑張ってほしいです！
- 楽しく聞きました。市民パーソナリティはたくさんいそうですね。
- アンテナエイト、八女のジヴィエ料理の紹介は良かった。
- 具体的でまた新しい視点での提案が多く、大変良かったと思う。
- いい意見が聞けて、参考になった。もっと討論の時間がほしかった。
- 賛同。
- 一部の時間が長すぎたため、少々疲れました。いろんなことを提案された。どれも面白いんじゃないかと思えた。
- FM八女のアナウンサーに、標準語で話してもらいたい。

3

プロジェクト実施後の提案

3-1. 提案1：FM桐生事例調査によるFM八女への提案

1つ目に、市民パーソナリティ約100名が活躍するFM桐生への視察とインタビュー結果をもとにした、八女市元気プロジェクトの学生メンバー杉智史から、FM八女への提案である。まずは、FM桐生の事例調査と調査から導出された「市民参加の仕掛け」である。

■ FM桐生への視察

- FM桐生とは、群馬県桐生市の中心商店街に位置し、2007年7月に開局したコミュニティ放送局（株式会社FM桐生）である。地元の優良企業9社が出資し、市民参加型のコミュニティ放送局を目指している。運営主体となっているのは、特定非営利法人桐生地域情報ネットワーク(KAIN)である。「みんなで作るFM桐生」をテーマに、それを実現するためのいくつかの仕掛けがある。
- 本プロジェクトでは、昨年度、KAINの理事長である塩崎泰雄氏と企画・番組編成担当の小保方貴之氏を八女市に招いて講演会を開いた。また、杉は、塩崎氏と小保方氏をはじめFM桐生の成功要因を掴むため、何度も桐生を訪れ、インタビューを重ねた。

■ 市民参加の仕掛け

①市民が発信する番組の放送	市民が自由に情報発信できるよう、放送時間を開放している。
②メディアの活用	ブログやソーシャル。ネットワーキング・サービス(SNS)、ポッドキャスティングなどメディアと連携することにより、様々な市民コミュニティを巻き込んでいる。
③既存の市民団体による運営	FM桐生誕生の源は、1984年に塩崎氏らが、愛するまち桐生を残そうという思いで設立した「渡良瀬クラブ21」までさかのぼる。以後、参加者を増やしながら、少しずつ組織形態も変え、現在では上述したKAINとして、様々なまちづくり活動を行っている。そのような経験とネットワークのある市民団体が運営主体となっている。

■ FM八女への提案

- 市民放送枠の拡大

まず、市民が自由に情報発信できる放送枠を拡大し、FM八女オリジナルの番組や、八女地域の文化や歴史、自然をとりあげた番組制作を増やすことが、まちづくりの核としてのコミュニティ放送局として重要なことであると考える。

- コネクタのコネクタ

次に、八女市内にある様々な市民団体をつなぐ存在、もしくは彼らが集まれる場になることが重要であると考える。特に、人と人とをつなぐ役を担う人「コネクタ」同士をつなげる役割を、FM八女が担うことにより、多くの市民を巻き込むことが可能となる。

3-2. 提案2：非公式FM八女ファンクラブの立ち上げ

2つ目に、八女市元気プロジェクトの学生メンバーから、非公式「FM八女ファンクラブ」の立ち上げを提案する。

■ 概要

非公式のFM八女ファンクラブとは、八女市民や八女出身者、外部の八女のファンで、勝手に立ち上げて、勝手にFM八女を盛り上げる集まりである。

■ 目的

① FM八女を核に、市内のコミュニティやつながり、活動を継続していく基盤を構築する。
② FM八女に対する住民の主体的な様々な活動を促進することにより、FM八女の番組やコンテンツを充実化する。
③ ラジオへの市民参加を促進する。
④ 聴取率を向上させる。

■ ポイント

① 非公式
② バーチャルとリアルの組み合わせ

＜バーチャル＞
- 広域への情報発信
- 幅広いファンづくり
- 番組の感想、意見の募集
- リアルタイムの双方向交流

＜リアル＞
- 地域イベントとの連動
- 独自の活動展開
- 地域ネットワークの口コミ効果

FM YAME 80.1MHz

- 番組やコンテンツの充実化、改善
- 市民参加の促進
- 聴取率向上

FM八女を中心としたまちづくりへ

3-2-1. FM八女ファンクラブの意義

FM八女ファンクラブのポイントである、非公式、バーチャルとリアルの組み合わせの意義について説明する。

■ 非公式の意義

- ファンクラブには2種類あり、アーティストや団体が自ら立ち上げる公設ファンクラブとファンが自ら運営する私設ファンクラブが存在する。この提案は、FM八女に対する私設のファンクラブを住民が立ち上げるものである。公式の形態をとった場合、主導するのはあくまでFM八女になる。そのため、住民たちはFM八女の企画をサポートすることはできても、自ら主体的に活動することはできない。
- 地域活性化を目指す場合、住民の主体性は重要であり、それをいかに発揮できる場所を作るかがポイントになる。非公式にすることで、住民が自由に活動を起こすことができるようになる。特に、活動方針やルール、どんなファンクラブにしていくかなども住民で考えることができる。これは、もう一度、FM八女や八女市をどうしたいかということを考えるきっかけにもなるだろう。FM八女をどうしたいか、八女市をどうしたいか、というビジョンは、一度の議論で終えず、常に議論し合い、よりよいものにしていくことが重要であり、そのためのきっかけになるであろう。また、このような議論も住民が自由に行うことができることも、非公式の形態をとることによるメリットである。

■ バーチャルとリアルを組み合わせる意義

- ソーシャルネットワーク(SNS)を用いたバーチャルなファンクラブには、広域に情報発信ができる強みや状況に左右されないリアルタイムなコミュニケーションを可能にする強みがある。具体的には、広域情報には、幅広いファンの獲得や意見の募集という効果がある。また、リアルタイムなコミュニケーションには、投稿募集やラジオに特有の双方向交流を促進する効果がある。これらの効果は、番組やコンテンツの充実化、改善に結びつくものであり、FM八女がよりよいラジオ局になるために活かすことができる。
- 次に、リアルな場を用いたファンクラブは、より信頼性の高い口コミを増やしたり、まちづくりとして地域の一体感を高めるたりすることを可能にする。地域とのイベントに連動して、ラジオの公開収録を行えば、住民のFM八女への関心を高めることができる。また、パーソナリティ育成講座を開くことで、FM八女への市民参加を促進できる可能性もある。このようにリアルな場でも同時にファンクラブが活動することで、町に一体感が生み出され、FM八女を中心としたまちづくりが展開されるようになるのではないだろうか。

3-3. 提案3：外部八女ファンからのラジオ番組提供

3つ目は、FM八女でレギュラー番組「IDEA!」を担当している本プロジェクトの研究所員、木口恒からの提案である。
ここでは、実際の「IDEA!」の番組制作の経験をもとに、八女市在住ではなくとも、よそにいながらでも八女のファンとして、番組を提供することの可能性を提示する。まずは、番組「IDEA!」の概要を説明する。

■ 概要

- 2012年12月15日に放送された八女市元気プロジェクト特別記念番組内にて、SFC研究所 所員（訪問）の木口恒が担当した「from now on」（22時から22時30分まで放送）は、2013年に話題になると予想されている、デザインやインターネットサービス、テクノロジーに関して放送した。
- 「情報発信のひらめきを探るプログラム」というテーマのもと、2013年2月23日（土）から放送されている「IDEA!」は、この「from now on」をレギュラー番組化したものである。
- 地域の交流や活動の紹介、また個々が考える地元の魅力やまちづくりに対する考えなど、情報技術を活用して全国へ発信することは、地域活性化の一助になるものと考えている。しかしながら、情報技術は敷居が高い、機器の操作が困難、金額がかかってしまうのではないか、などの疑問や誤解が、FM八女のリスナー層に限らず、生じている。そのような考えを払拭するための情報を提供し、より身近に「情報発信」を感じてもらう狙いがある。また、実際にウェブサイトやSNSを使用して、情報発信を行っている八女市民に「情報発信の注意点」「八女市に必要な情報」「情報発信とは何か」といった内容のインタビューを行い、その模様を放送している。

■放送時間

毎週土曜日　20時30分～21時00分
（※なお2013年4月から毎週日曜日22時00分～23時00分

●「IDEA!」ロゴ

3-3-1. 「IDEA!」放送内容とリスナーコミュニケーション方法

「IDEA!」のこれまでの放送内容とリスナーとのコミュニケーション方法について説明する。

■ 放送内容

放送回数	放送日時	放送内容
第1回	2月23日	情報発信とは何か。
第2回	3月2日	ご当地キャラクターの今後を考える。
第3回	3月9日	JR九州新幹線のCMを振り返る。
第4回	3月16日	無料通話アプリLINEの新サービスと、2012年の広告費をご紹介。
第5回	3月23日	Apple「iWatch」の噂の紹介と、iPhoneプロトタイプから試作の大切さを考える。

■ リスナーとのコミュニケーション方法

リスナーとのコミュニケーション方法としては、下記の3つが挙げられる。

- E-Mail（idea@fmyame.jp）
- ウェブサイト（http://hisashikiguchi.com/idea/、4月よりhttp://idea.fmyame.jp）
- Twitterアカウント（@fmyameidea）

3-3-2. 外部八女ファンによる番組提供方法

「IDEA!」の放送手順をもとに、外部の八女ファンが番組を提供する手順を説明する。

■番組放送手順

「IDEA!」は、パーソナリティの居住地である神奈川県横浜市にて、収録および編集を行っている。「完全パッケージ」と呼ばれる、番組として完成された状態の音声データを作成し、データを収録したCDの郵送もしくは、E-mailを用いてFM八女に送付する。その後、FM八女スタッフにて、データを放送できる状態に設定し、FM八女にて放送される仕組みになっている。

なお、番組の作成には相応した番組の品質、高音質での録音が必要不可欠であるが、一般消費者向けのコンピュータや、音声編集ソフト、実勢価格約1万円のマイクを使用することにより、それらを担保することが出来る。

3-4. 提案4：サイバー鬼ごっことFM八女のコラボレーション

4つ目の提案は、Facebookを用いた鬼ごっこ「サイバー鬼ごっこ」と、FM八女のコラボレーションによる「ラジオサイバー鬼ごっこ」である。
この案が生まれた背景と可能性について述べる。

■ 背景

本プロジェクトにおいて開催された「サイバー鬼ごっこ」は、地域住民を巻き込んだ体験型のイベントである。本頁筆者の木口は、2013年3月9日に開催された同イベントに参加をした。実際に八女市内を散策しながら、与えられたミッションをクリアしていき、時にハンターや同じ参加者に見つからないように走る感覚は、実に新しい感覚である。これは、放送エリアが限られているコミュニティFMを擁する八女市だからこそ、サイバー鬼ごっことFM八女の協働（コラボレーション）によって、より大々的なイベントとすることができ、八女市の新たなイベント、お祭りとして定着できるのではないかと考えた。

■ 可能性

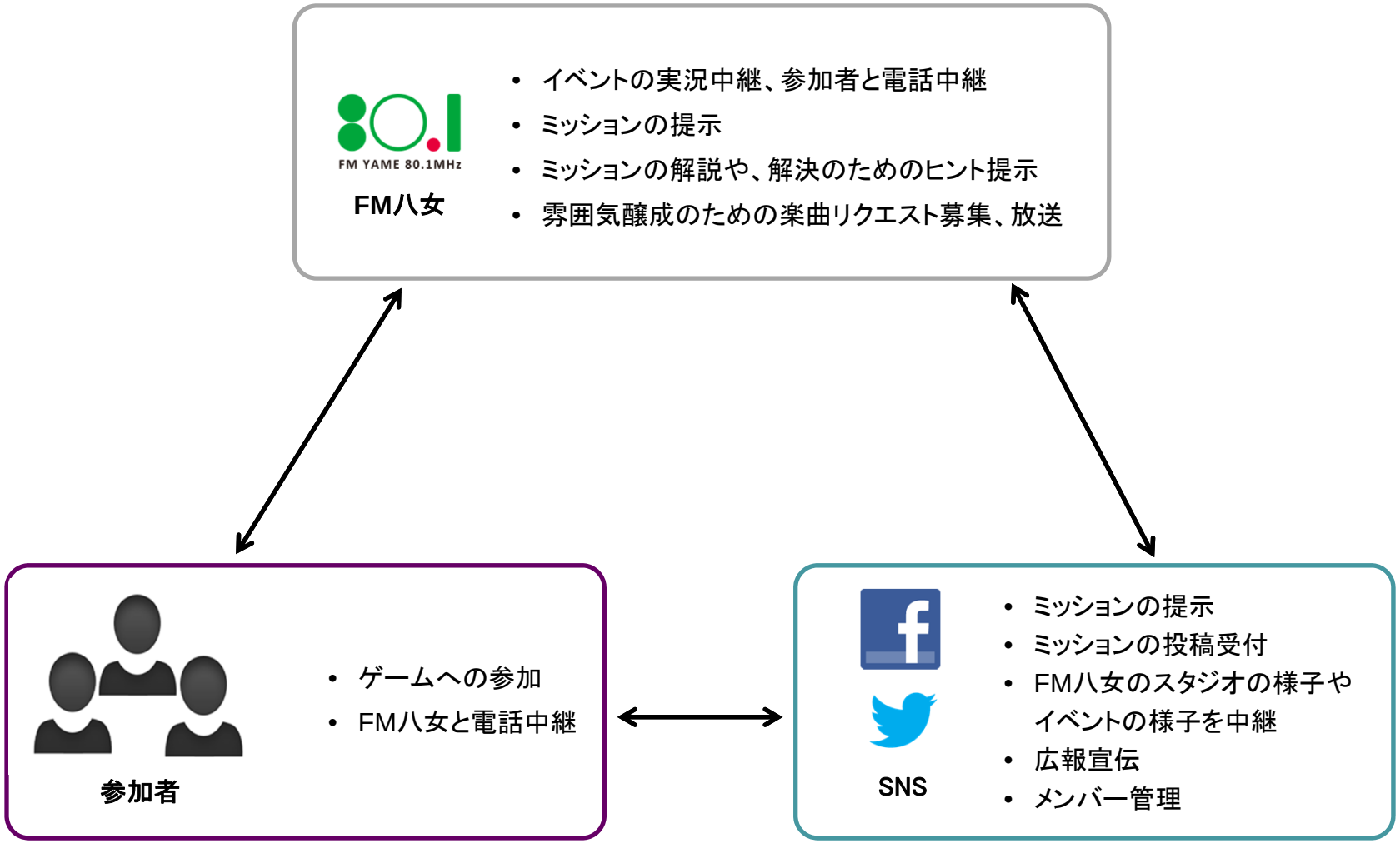
ラジオは、音声のみのメディアという特性上、家事や仕事などの作業をしながら、楽しむことが出来るメディアである。それは鬼ごっこをしている際にも、同様の事が言える。そこで、サイバー鬼ごっこ開催時に、FM八女にて特別番組を編成し、番組を放送することで、「ミッションの提示」「解決するためのヒント」「実況中継」「逃走者の居場所を知らせる」といった内容を放送し、ラジオ・地域住民・インターネットの三位一体となった、他地域にも例をみない、新たなイベントとなる期待が出来る。ただ、万が一の事故などの対応や、インターネット・FM八女の使い方を必要十分に検討しなければならない。

3-4-1. ラジオサイバー鬼ごっこ方法

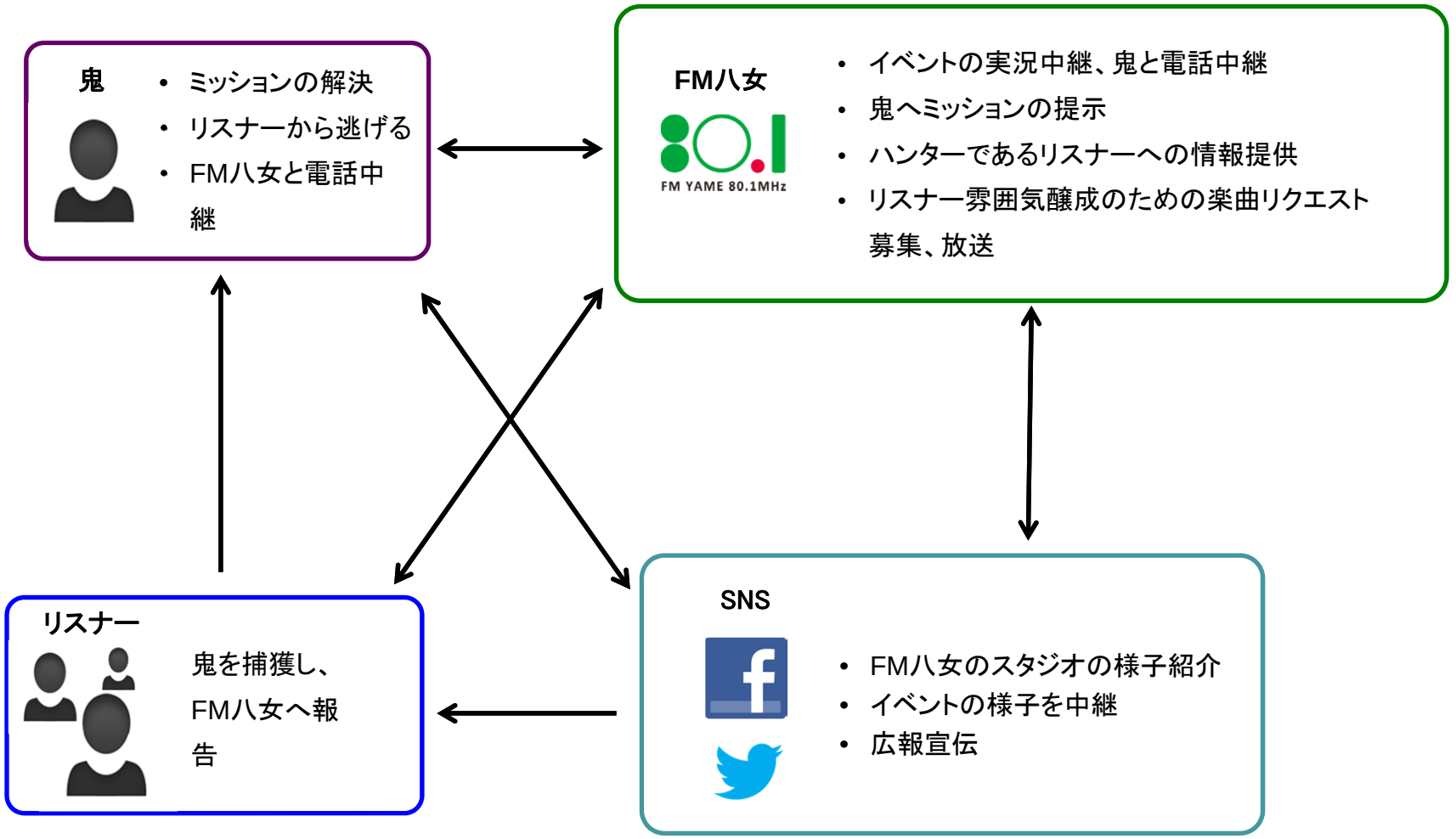
「ラジオサイバー鬼ごっこ」の方法を2つ紹介する。

	方法1	方法2
内容	サイバー鬼ごっこ参加者（鬼・ハンター）が、イベントを行い、その模様をFM八女が中継する。 • 「Aさんが今、ミッション1をクリアしました！」「Bさんが今つかまってしまいました！これで2ポイント減点です！」といった放送をする。 • 放送する楽曲は、イベントの雰囲気醸成のためにリクエストを募り、随時放送する。	数名の鬼をあらかじめ決めておき、FM八女のリスナー全員で追いかける（リスナーがハンターとなる）。 • FM八女は鬼とリスナーの中継役に徹し、「今、鬼Aさんは、〇●にいるようです！」といった鬼の現在位置情報の提供や、リクエストを放送する。 • 捕獲したリスナーにはプレゼントを渡し、また実際にスタジオに呼ぶ、電話でインタビューするなど、コミュニケーションを図る。
メリット	• 大掛かりな準備が必要なく、すぐにでも実行できる。 • 番組自体がイベントの広報を兼ねるため、次回のイベント開催への足がかりが作りやすい。	• リスナー全員が参加者となるため、大規模なイベントとなり、FM八女の聴取率向上を図ることができる。 • リスナーである八女市民・FM八女・インターネットという、三位一体型の新しいイベントを、八女市から発信できる。 • 番組自体がイベントの広報を兼ねるため、次回のイベント開催への足がかりが作りやすい。
デメリット	• 参加者のみに関係する放送になってしまうため、「内輪で楽しんでいる」と思われかねない。	• 鬼の選出や、エリア、ルールの設定、メディアの使い分けなど、入念な準備が必要。 • プレゼントや大規模なイベント開催のため、コストがかかる。

3-4-2. ラジオサイバー鬼ごっこ方法1のイメージ



3-4-3. ラジオサイバー鬼ごっこ方法2のイメージ



4

2012年度プロジェクト成果

4-1. 成果1：市民学生コミュニティの形成

3年間のプロジェクトを通じて、市民と学生がメンバーとなるコミュニティが3つ生まれた。全て、Facebookを活用することにより、コミュニケションを促進した。
さらに、学生の活動が媒介となり、市民同士の新しいネットワークが形成された。
※Facebookとは、フェイスブック株式会社が提供するソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)である。

①八女市元気プロジェクトFacebookグループページ（メンバー限定）

本プロジェクトでは、2012年3月22日より、そのFacebookが提供する機能のひとつ、グループページを八女市元気プロジェクトのコミュニケーション手段として活用を始めた。神奈川県の慶應義塾大学の学生と八女市民の方という距離の離れた二つの地域を繋ぎ、物理的な距離を超えて情報共有や企画の準備を進める大きな役割を果たすとともに、インターネット上でのコミュニティ形成に寄与した。2013年3月24日時点でのグループページ参加者数は82人。内訳は、慶應関係者19名、八女市役所関係者5名、九州テレコム振興センター(KIAI)3名、八女市民(八女市外在住者も含む)55名と、市民が7割を占めるコミュニティになった。

②茶のくに八女サイバー鬼ごっこFacebookページ （公開）

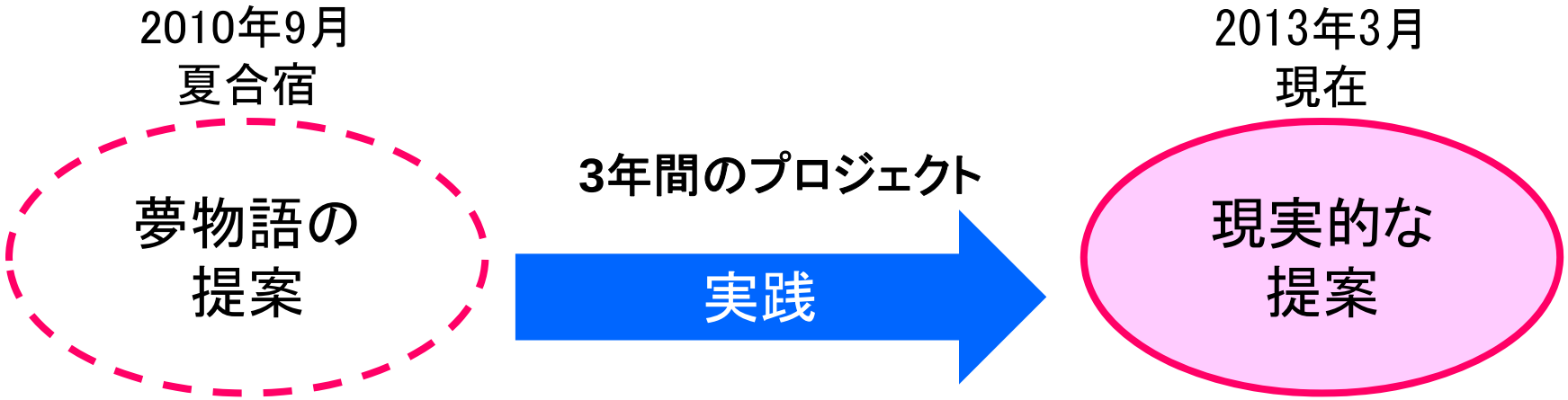
茶のくに八女サイバー鬼ごっこFacebookページは、インターネット上のみでの利用ではなく、現実世界での鬼ごっこと連動させることで情報発信と同時に現実世界に参加者のコミュニティが形成される。2012年9月のサイバー鬼ごっこの際には、Facebookのグループページ機能でシステム管理を行ったが、住民との反省・話し合いの結果、現在のページ機能を利用するようになった。2013年3月24日時点でページに対して44人の方から「いいね!」ボタンが押されている。実際に3月9日に行われたサイバー鬼ごっこでは18人が逃げる側として参加、4人が捕まえる側で参加をした。

③茶のくにで遊ぶ会Facebookページ （公開）

茶のくにで遊ぶ会Facebookページは、イベント実施と連動させて、出店者・協賛者の紹介やイベントの準備状況などを掲載した。2013年3月28日時点で、125人からの「いいね！」ボタンが押されてる。結果、この125名に、八女市内にどのような市民がいるのか、どのようなまちづくりがあるのかという情報が発信された。実際のイベントでは、出店者や協賛者の詳細を一度に知ることは難しい。また、出展者・協賛者同士がお互いに知り合うことも難しい。しかし、このFacebookページでイベントに向けて随時投稿していくことにより、参加者同士が互いを知ることができた可能性がある。

4-2. 成果2：ラジオまちづくりの現実的な提案

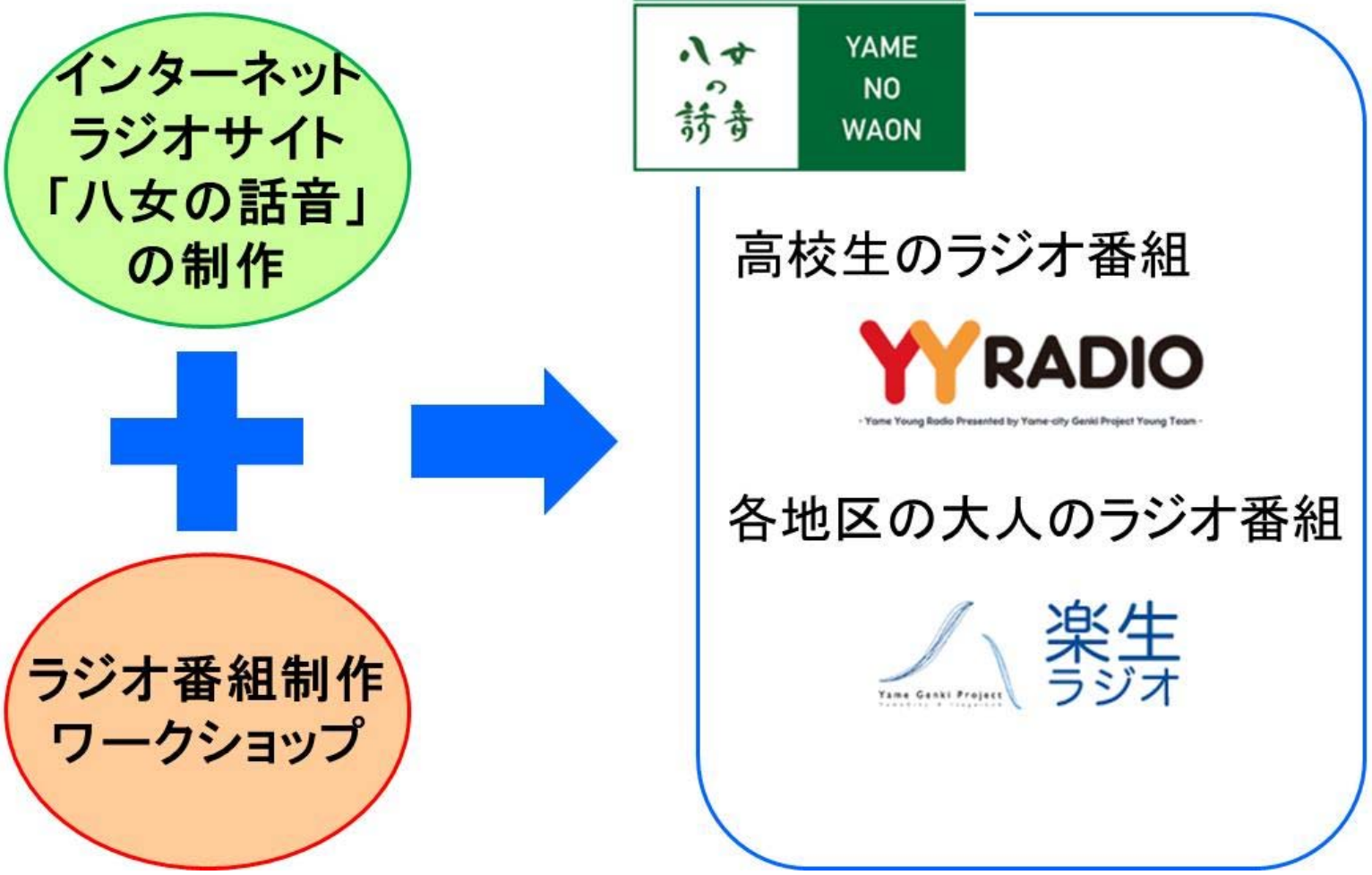
本プロジェクトが始まった2010年、最初の取り組みとして夏合宿を開催し、8チームから、ラジオを活用したまちづくりを提案した。これは、学生たちが初めて八女を訪れ、2泊3日で作り上げたものであり、実現可能性は低いものであった。それから、3年間のプロジェクト実践を通して、実現可能性の高い、ラジオまちづくりの提案を4つ行うことができた。これらは、3年間、学生が市民と共に活動を進め、市民と意見交換し、市内を周り、想いや状況を理解したからこと生まれたものであると考えらえる。



No	提案先	提案内容
提案1	FM八女職員	FM桐生の事例調査による、 市民主体のラジオ番組放送
提案2	八女市民の皆様	FM八女ファンクラブの立ち上げ
提案3	FM八女のファン	
提案4	FM八女職員 & 八女市の皆様	サイバー鬼ごっことFM八女のコラボレーション ラジオサイバー鬼ごっこ

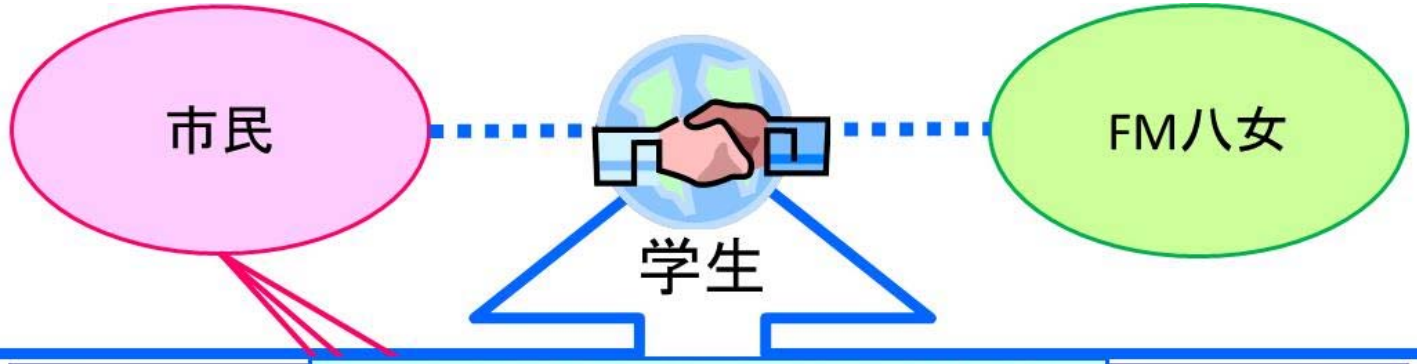
4-3. 成果3：市民制作のラジオ番組

本プロジェクトにおいて、市民が制作したラジオ番組が生まれた。これは、主に2つの活動による成果であると考える。1つは、インターネットラジオサイト「八女の話音」を制作することにより、誰でもラジオ番組を自由に配信できるようにしたことである。2つ目は、市民がラジオ番組を制作するワークショップを開催したことである。さらに、この場を学生たちが作ったことにより、八女市内の高校生も大人も、年齢問わず参加できるようになったと考える。



4-4. 成果4：市民のラジオ出演

本プロジェクトの学生が番組を担当させてもらうことにより、市民もラジオに出演することが実現した。現段階では、市民がFM八女で番組を持つことは難しい中、学生の活動を介することにより、市民がラジオ番組を持つことのできるプラットフォームが形成された。



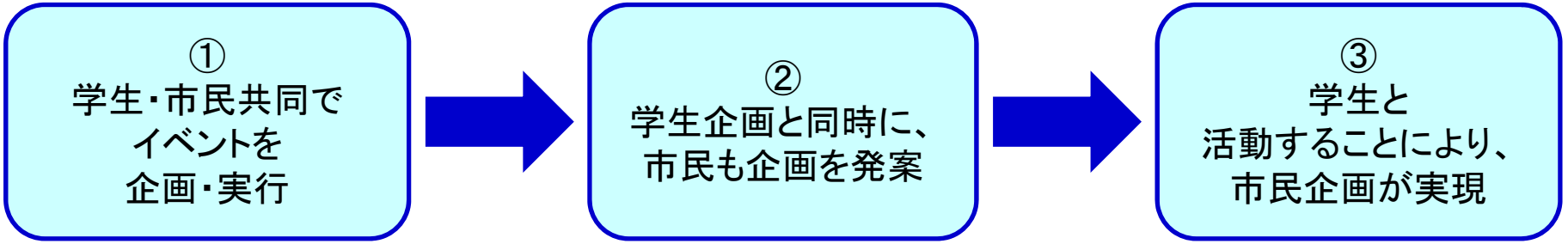
八女市元気プロジェクト特別記念番組

時間			形態
18:00～	オープニング	西中、藤川、松田	生・収録
18:30～	YY RADIO	輝翔館中等教育学校、磯谷、高野	収録
19:00～	輪読ラジオ	西中・藤川・津福・松野	生・収録
19:30～	市民枠（アンテナエイト）	アンテナエイト、西中、藤川、松田	生・収録
21:00～	八女市元気ラジオ	学生メンバー全員	生・収録
21:30～	市民枠（八女茶ごくごく）	八女茶ごくごく、西中、津福	生・収録
22:00～	From Now On	木口、松野	生
22:30～	八女の遊びBar	杉、高木氏	生
23:30～	エンディング	杉、藤川、津福	生

4-5. 成果5：市民企画の実現

学生主体の活動から始まった本プロジェクトにおいて、今年度は以下の案が市民から出され、実現した。この結果より、市民と学生が連携してイベントを企画することにより、市民からも意見が出されるようになり、同時に学生が手伝うことにより実現しやすくなっていると考えられる。さらに、この6つの企画のうち、1つはラジオとの連携により八女市の新しいイベントになる可能性があり、このラジオを活用したまちづくりは、本プロジェクトで目指していたことである。つまり、本プロジェクトの目的に直接関連するかどうかに関わらず、市民と学生がやってみたいと思うことを出し合い、形にしていく中で、本来目指していたことに近い活動が生まれてくると期待できる。

市民企画案	企画発案者	企画が実施されたイベント
イベント「@HOME」	茶のくにで遊ぶ会運営メンバー	茶のくにで遊ぶ会
イベント「@遊VIVA」	茶のくにで遊ぶ会運営メンバー	茶のくにで遊ぶ会
お茶の手もみ体験	室園真澄氏	八女の話
スラックライン	原野寛久氏	八女の話
茶ポテト	室園真澄氏	八女の話
サイバー鬼ごっこ	末廣修一氏	八女の話



4-6. 成果6：ORFにおける発表

都内のイベントにおいて、本プロジェクトの発表を行った。これは、学生たちがこれまでのプロジェクト内容について振り返る機会として重要である。同時に、八女市元気プロジェクトに対する外部からのアドバイスや評価を集め、それらを活かして今後の活動内容を検討することができた。さらに、都内における八女市の情報発信にもなった。

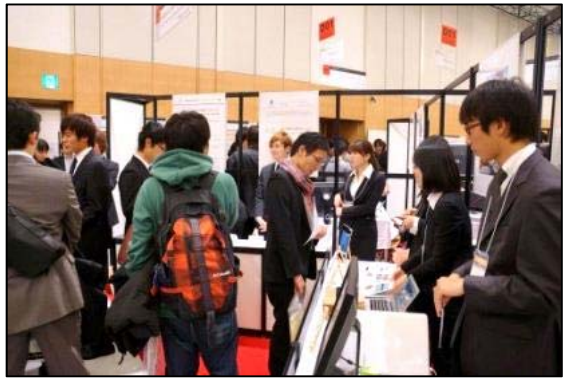
■ ORFにおける研究発表

- ORFとは、Open Research Forumの略であり、「湘南藤沢キャンパス(SFC)で行われている産官学連携の推進を目的として慶應義塾大学SFC研究所が主催するイベント」のことである。SFCで研究を行っている各研究会がブースをもち、パネル発表や成果物の展示、デモンストレーションを行う。またブース説明のほかに専門家や教授のセッションやワークショップなども行われる。

- このイベントにおいて、八女市元気プロジェクトも、「ITを活用した八女市活性化」というタイトルで発表を行った。A4サイズの両面チラシを作成し、チラシを元に八女市元気プロジェクトの活動を、ブースを訪れる方々に説明を行った。3年目の活動である八女の話や特別記念番組の活動などを中心に、このプロジェクトの目的や概要など詳しい説明を行った。来場した行政関係者や地域おこし協力隊員など多くの方に興味を持っていただくことができた。

●使用したパネル

●会場の様子1


●会場の様子2

●説明風景

4-7. 成果7:メディア掲載

- 毎日新聞筑後版朝刊
  2012年9月22日付

毎日新聞

お茶どころ 秋祭り一色に

「あかりとちゃぼんぼん」始まる

きょう「八女の話」

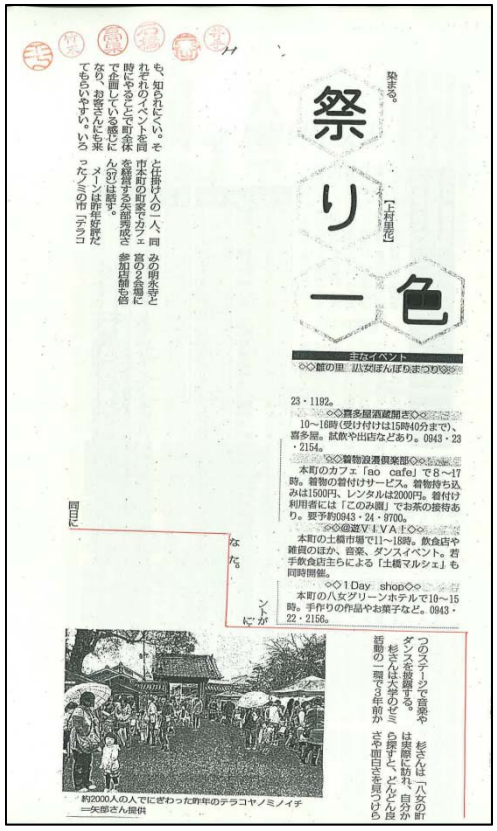
久留米

交通安全

本間小児科

のえ総合心療病院

- 毎日新聞筑後版朝刊
  2013年3月1日付



祭り一色

- 朝日新聞筑後版
  2013年3月10日付

スマホ駆使 街中鬼ごっこ

八女・福島を再発見

名物・敵の姿投稿→得点 姿撮られた→減点

4-8. 成果8:ラジオ出演

■ ラジオ出演一覧

日時	出演者	ラジオ局	番組名
2012/9	津福	FM八女	「がまだすワイド801」
2012/11/14	杉	FM八女	「がまだすワイド801」
2012/12/14	西中・松田	FM八女	「がまだすワイド801」
2012/12/31	松田	FM八女	「がまだすワイド801」 年末企画
2013/2/19	杉	FM八女	「がまだすワイド801」
2013/2/28	杉	FM八女	「がまだすワイド801」
2013/3/22	西田	FM八女	「がまだすワイド801」

■ 広報八女掲載

掲載号	掲載内容
9月号	第二回八女の話告知
12月号	八女市元気プロジェクト 特別記念番組告知
3月号	第三回八女の話告知

4-9. 成果9：市民によるラジオまちづくりの提案

2013年3月24日に開催した本プロジェクトの最終報告会の第2部において、学生と活動してきた市民にパネラーとなってもらい、9名からラジオを活用したまちづくりの案を発表してもらった。パネルディスカッションの概要は以下の通りである。

■ 目的

① 住民の方にラジオとまちづくりについて考えていただく機会にする。
② ラジオまちづくりについて住民の方から提言できる機会を作る。
③ 今後のラジオまちづくり活動に向けての市民のスタートラインにする。

■ 司会進行

- 飯盛義徳（慶應義塾大学）

■ コメンテーター

- 川崎麻耶氏、髙木祥平氏（FM八女）

■ パネリスト

- 9名（6団体）

■ 質問内容

- 1周目の質問：自己紹介

「八女市を元気にする活動として、実践されていることを教えてください。」

- 2周目の質問：提案

「ラジオを活用してどのようなまちづくりができると思いますか？」

■ パネリスト名前・所属

お名前	ご所属
末廣修一氏	ハイパーITインストラクター
椿原淳氏	八女茶ごくごくpodcast
木下秀幸氏	八女茶ごくごくpodcast
山崎誠氏	八女茶ごくごくpodcast
松内通寛氏	アンテナエイト
中尾圭詞氏	茶のくにで遊ぶ会
中村健一氏	一般社団法人2030年の八女を真剣に考える会
田中宏輔氏	一般社団法人2030年の八女を真剣に考える会
藤木敏治氏	八女高等学校吹奏楽部OB

4-9-1. 市民によるFM八女を活用したまちづくり政策提言

最終報告会に置いて、9名のパネリストによって発表されたラジオを活用したまちづくりの提案内容である。（以下、当日のパネルディスカッションの順番）

パネリスト	ご提案内容（概要）
藤木氏	● 市民がラジオに出演する・ラジオを聴くための提案4つ ① 小学生向けのDJ体験 • プレゼンテイションコンテストのように上位入賞者がFM八女でのDJ体験ができる。小学生が小学生向けに番組を制作するができる。 ② 高校生による公開弁論 • 地元の高校生がラジオで公開弁論し視聴者が投票し年間グランプリを決め賞金を出す。 ③ 婚活番組 • 都会の未婚女性に農業体験をしていただき、女性と知り合う機会の少ない農家の方にインストラクターとして、カップル誕生までラジオが密着取材を行う。 ④ 孫へのメッセージ • 孫に会いたい高齢者向け、孫への愛のメッセージを叫んでいただき、コンテストを行う。
田中氏	● 八女市の市政に関心を持ってもらうための提案 ①市議会のラジオ放送 • 現在ホームページで見れるようになっているが、パソコンを操作できる人に限られる。防災ラジオは気軽に聞けるという利点がある。 ②市長の声 • 八女市民が市長を身近に感じられるようにする。
中村氏	●市民がラジオに出演するための提案 ① 一般市民が出演する際にどのようなことに気を付けるのか（言ってよいこと、言って悪いことなど）という基本的なルールの整備をすると一般の参加者が流動化するのではないだろうか。
中尾氏	● 八女市内のイベントを盛り上げるための提案 ① イベント生中継　イベントステージがあるところにFM八女が出張し、生中継のMC（全司会進行）を担当する。

4-9-1. 市民によるFM八女を活用したまちづくり政策提言（続き）

パネリスト	ご提案内容（概要）
松内氏	● 自然とスイッチを入れて聞いてしまう番組の提案 ① イベントスタートの同時放送 • 街コンやはしご酒イベント、茶の香マラソンなどの乾杯やスタートを、ラジオ番組で同時放送する。離れた場所に散らばっていても一体になるきっかけをラジオで作る。 ② 市民の声と市長の声 • 八女市への市民の声をハガキでなく声でもらい（不平不満だけでなく感謝の声を）、月に1回、市長からも声で返事をもらう。
椿原氏	① 市民の出演 • ラジオは聞く人がいないとはじまらない。ラジオを聴く人を増やすべきである。知っている人が出演するとか市民が沢山出演すると、聴く人が自ずと増える。 ②「八女茶ごくごく」の放送枠 • ①を実現するための第一歩として、市民でPodcastでラジオ番組配信している自分たちの番組の放送枠をください。
木下氏 山崎氏	① インターネットでの配信 • 現在はラジオの前にいないとラジオが聞けない。そのため、サイマルラジオやPodcastでの配信により、いつでもどこでもだれでも聴けるようにしてほしい。
末廣氏	① 学校行事の放送 • 今年度のPTA関係のお手伝いをしている。 八女市に26の小中学校がある。卒業式は平日の午前中に行わる為、お父さん方が参加できていない。学校の行事、PTAの行事、校長先生の話等をラジオで流して欲しい。他にも、運動会で盛り上がっている応援合戦や卒業式の時に子供たちが歌う校歌など。 ② 市民による地区の紹介 • 市民が町の紹介をすることで、立花の方が黒木のことを知り、上陽の方が立花のことを知ることができる。

5

学生からのメッセージ

松田華保子

『八女での活動は、私にとって大学生活の中で一番大事な出会いと経験でした。卒業して社会人になっても、いくつになっても八女に行きます。八女が大好きです。ありがとうございました。』

磯谷美帆

『今まで本当にお世話になりました。初めて八女市にお邪魔させていただいた時から、訪れる度、私は八女市のファンになっていきました。素敵な街並み、にぎやかなお祭り、豊かな自然、美味しい食べ物…そして何より、魅力的で温かな八女市の皆様にお会いできて、幸せでした。いつも優しく迎え入れ、たくさんのことを教えていただき、本当にありがとうございました。これからも、八女市の益々のご発展をお祈りしております！』

杉智史

『これからもよろしくお願いします！』

西中彰平

『最終報告会ということで3年間続いた八女市元気プロジェクトもいよいよ最後なのですが、やっぱり寂しいです。はじめのころはうまくできるか不安でいっぱいでしたが、皆様によくしていただきとても楽しく活動を行うことができました。いつも元気なにしげなので、これからも微力ながら八女市の元気に関わって行きたいと思います！3年間本当にありがとうございました！』

松野幸宗

『このプロジェクトは、ぼくにとってとても大きな成長をさせていただいたものです。知識的、経験的に多くのことを学びました。そしてなにより「人」のあったかさを学びました。みなさまと一緒に2年間という時間を共有させていただけたことにただただ感謝しています。ありがとうございました。』

津福和加子

『あたたかい八女市の皆様と出会うことができ本当に私は幸せ者です。八女市は私にとって第2の故郷です。活動を通して生まれた全ての繋がりをこれからも皆で大事にしていけたらと願っております。今まで本当にありがとうございました！！！これからも個人的に八女市に行かせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。』

藤川徹也

『美しさに驚いた八女の景色も、最初は緊張したみなさまとのふれあいも、いつしか僕の中でかけがえのない日常に変わっていました。たくさんのことを教えてくださり、ありがとうございました。学んだこと全てをこれからに活かして、大きく成長してまた八女に帰って来られるように頑張ります。みなさまとの出会い、プロジェクトでの経験は一生の財産です。3年間本当にお世話になりました。そして、行ってきます！！！』

高野未久

『八女市元気プロジェクトが始まった当初から、皆様と八女市について様々なお話をさせていただきました。八女市を訪れる度に新たな発見があり、多くを学ばせていただきました。約3年間、お世話になりました。資源も豊富にある八女市ですが、私は何より優しさに溢れる人が最大の魅力だと思っています。また遊びに伺います！』

平成24年度「八女市元気プロジェクトーコミュニティFMを活用した地域活性化ー」
2012年度成果報告書（2012年度事業成果資料）

平成25年3月

慶應義塾大学飯盛義徳研究室
〒252-0882神奈川県藤沢市遠藤5322-ε406
E-Mail: isagai@sfc.keio.ac.jp / mizue@sfc.keio.ac.jp
（総責任者：飯盛義徳/総括プロジェクトリーダー西田みづ恵）